

コニカミノルタ株式会社  
2021年3月期（2020年度）

# 決算説明会

代表執行役社長兼CEO 山名 昌衛

2021年5月14日

【億円】

	2020年度 4Q	2019年度 4Q	増減率	2020年度 通期	2019年度 通期	増減	増減率
売上高	2,485	2,491	△ 0%	8,634	9,961	△ 1,327	△ 13%
売上総利益 (売上総利益率)	1,104 44.4%	1,118 44.9%	△ 1% △ 0.4pt	3,747 43.4%	4,663 46.8%	△ 917 △ 3.4pt	△ 20%
販売管理費 (為替影響除く実質)	1,003 994	1,070 -	△ 6%	3,897 3,911	4,431 -	△ 534	△ 12%
営業利益	83	△ 24	-	△ 163	82	△ 245	-
親会社の所有者に帰属する 当期利益	54	△ 52	-	△ 152	△ 31	△ 121	-
FCF	359	67	+ 436%	437	△ 199	+636	-

## 4Qで増収増益を達成した事業

- ITサービス/WPH (+12%)
- (既存)ヘルスケア(+13%)
- 計測機器(+37%)
- 機能材料(+11%)
- IJコンポ(+23%)

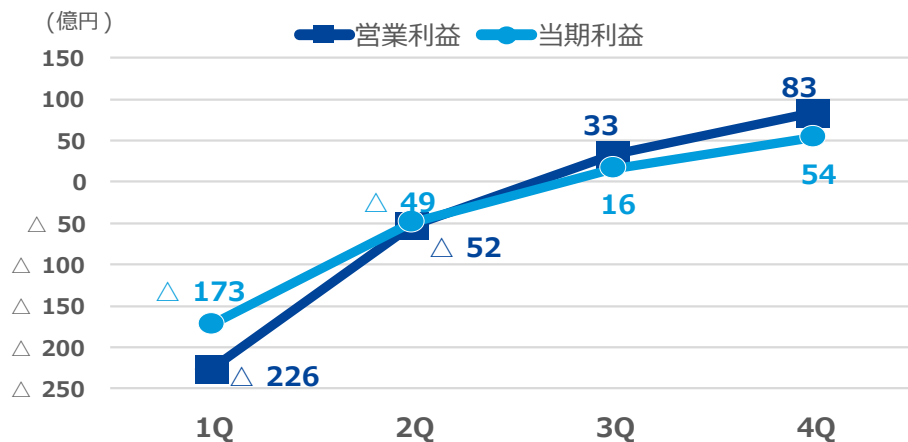
## 通期で増収増益を達成した事業

- インダストリー全体(+1%)
  - 計測機器(+18%)
  - 機能材料(+6%)
  - 画像IoT(+12%)
- ITサービス/WPH(+1%)

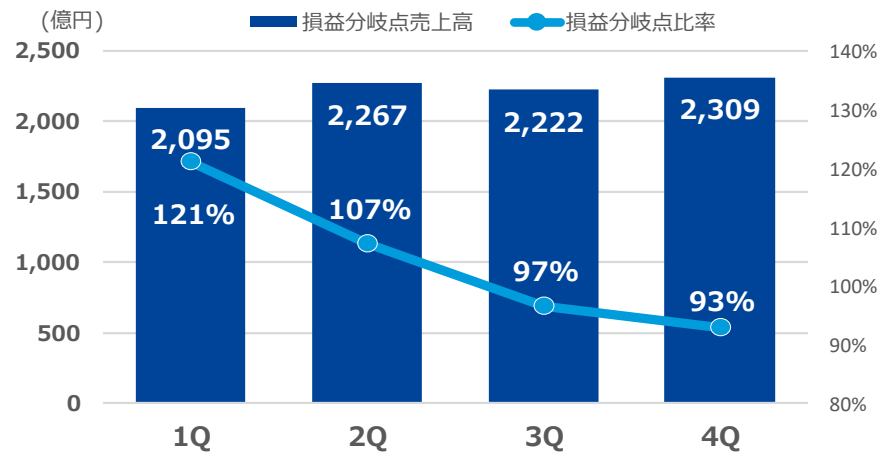
※ () 内は増収率

四半期毎の営業利益、損益分岐点比率は着実に改善。  
 運転資本の改善、設備投資・投融資厳選継続等により、確実にキャッシュ創出力(稼ぐ力)を回復。

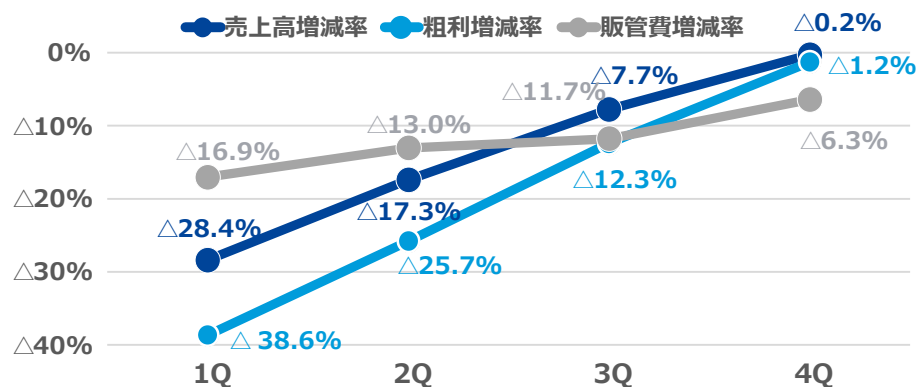
## ■ 営業利益



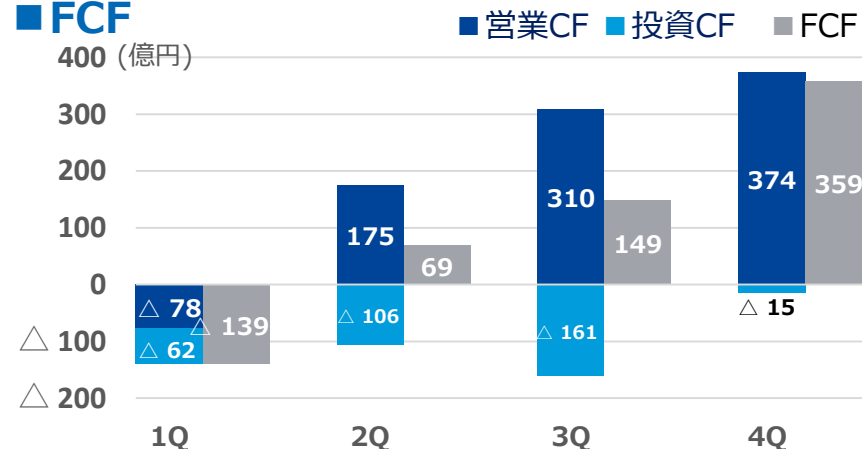
## ■ 損益分岐点



## ■ 対前年 増減率



## ■ FCF



## ポジティブ

- 当期利益は超過達成（+28億円）・単体収益も改善
- CCC/営業CF改善によりFCF大幅改善（+337億円）
  - 期初借入850億円のうち650億円返済（4Q 350億円返済）
  - 自己資本比率改善（前期末対比+0.5pt、1Q末対比+3.2pt）
  - 期末配当15円（予定通り、中間期から5円増配）
- 全四半期で販管費1,000億円切り（4Qは為替影響除く実質ベース）
- インダストリー事業は想定通りの利益成長で着地
  - 計測機器：FY17のOLED特需を除けば、4Qは最高の四半期売上
  - 機能材料：FY16の売上開示以降、最高レベルの4Q売上
- プレシジョンメディシン事業も含め、のれん減損該当無し

## ネガティブ

- 欧米での行動規制再開と継続が影響（1月に落ち込み3月に向けては改善）
  - PV減：ノンハード売上9割回復想定に対し、オフィス84%、PP 88%  
→但しハードは3月に大きく復調。FY21のノンハード回復に向け好材料
  - 遺伝子検査数減：検査数回復が3月後半となり4Q売上に寄与せず
- 構造改革：欧州で一部遅延

	見通し	実績	差異
当期利益	▲180億円	▲152億円	+28億円
FCF	100億円	437億円	+337億円
借入返済	-	期初借入850億のうち650億返済	予定通り
自己資本比率	-	45.3% (格付用)	前期末対比+0.4pt 1Q末対比+3.0pt
期末配当	15円	15円	予想通り
4Q販管費	1,000億円以下	981億円 (為替影響除く実質)	△19億円
インダストリー営業利益	155億円	156億円	想定通り増益



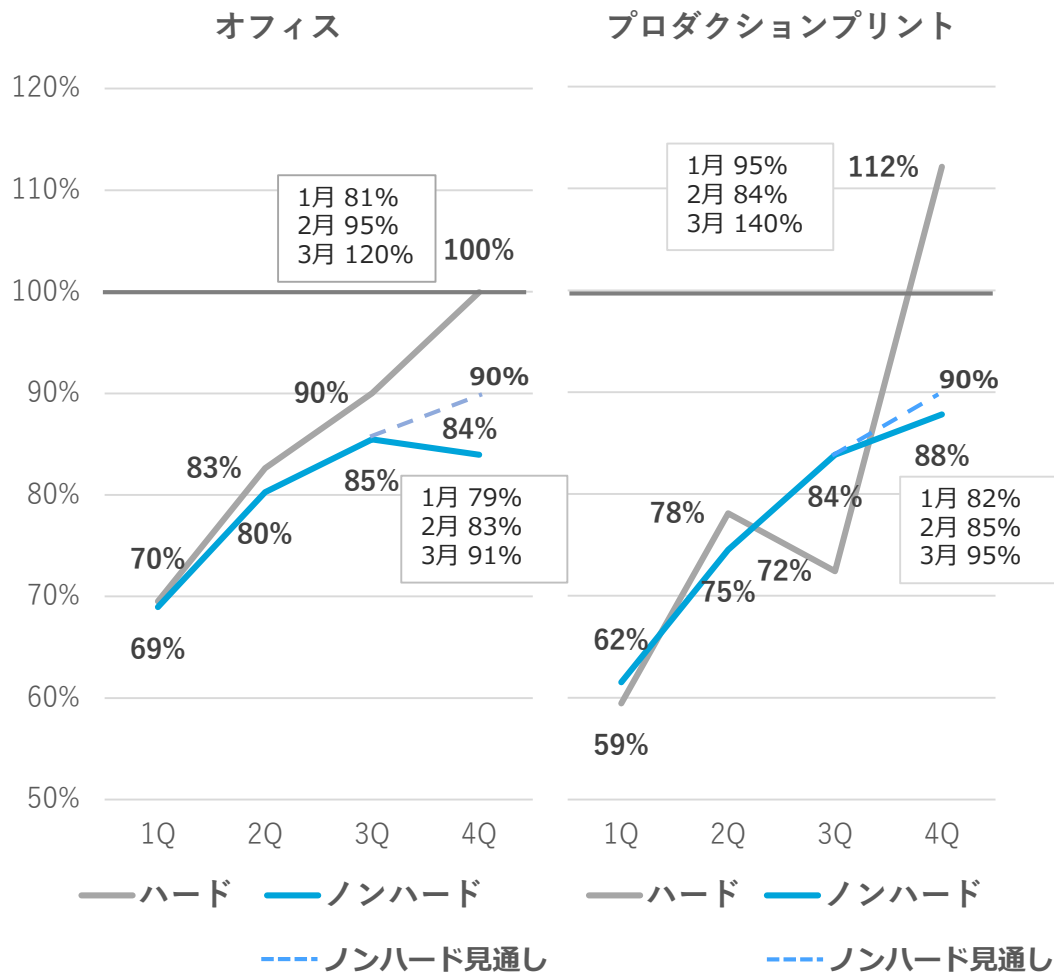
【億円】

営業利益	見通し	実績	差異
デジタルワークプレイス (オフィス)	0	△ 27	△ 27
プロフェッショナルプリント (プロダクションプリント)	△ 70	△ 79	△ 9
ヘルスケア (プレジジョンメディシン)	△ 55	△ 64	△ 9
インダストリー	155	156	+1
コーポレート・他	△ 160	△ 149	+11
<b>合計</b>	<b>△ 130</b>	<b>△ 163</b>	<b>△ 33</b>

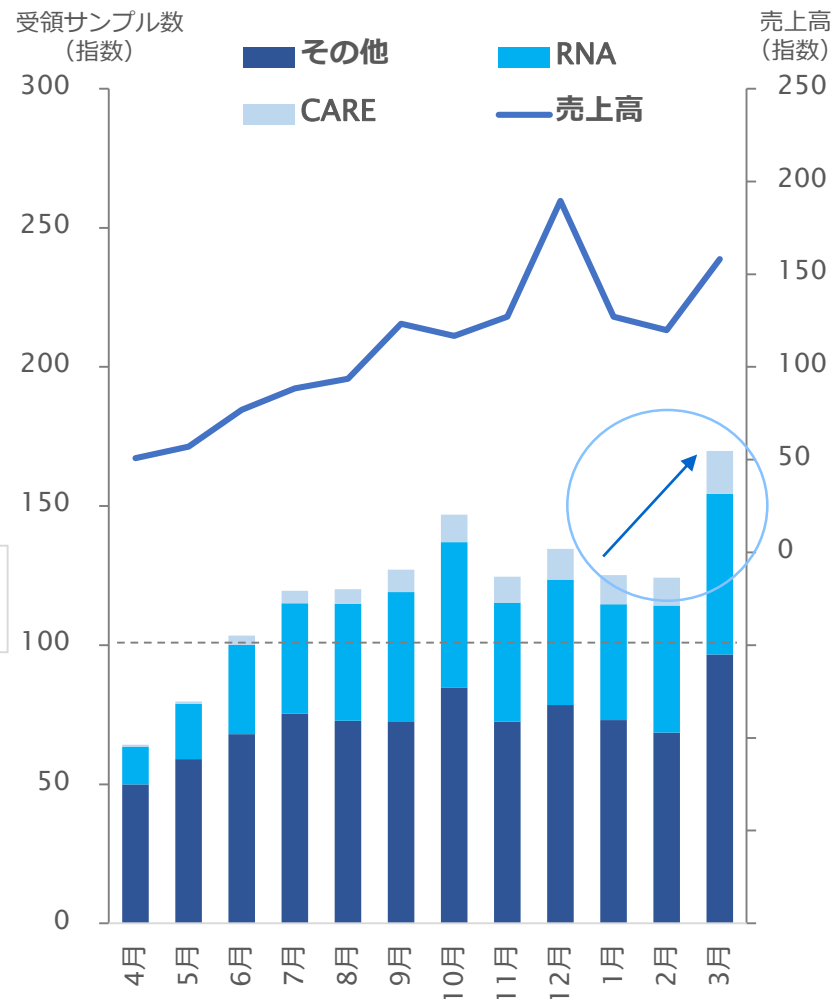
※ (差異の要因となった事業ユニット)

	見通し	実績	
4Qノンハード	9割回復	OP 84% PP 88%	△37億円 (OP △34億、PP△3億)
プレジジョンメディシン 4Q売上	94億円	76億円	(遺伝子診断受領サンプル 数は見通し比+6%、但し 3月後半に増加)
追加構造改革 (費用)	50億円	32億円	△18億円

## ハード・ノンハード前年比売上増減率

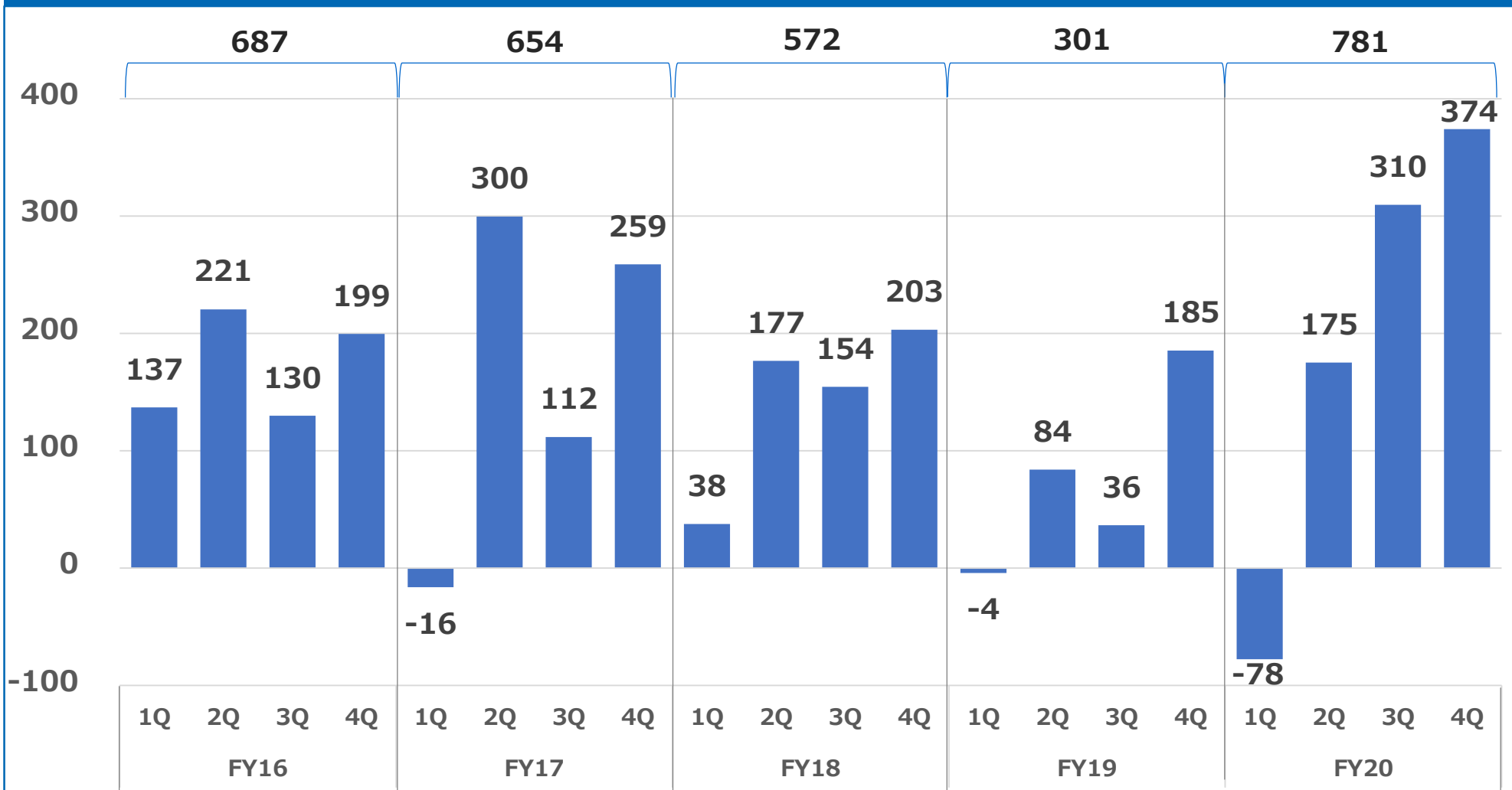


## Ambry売上高および受領サンプル数推移





営業キャッシュフロー推移





## 計測機器

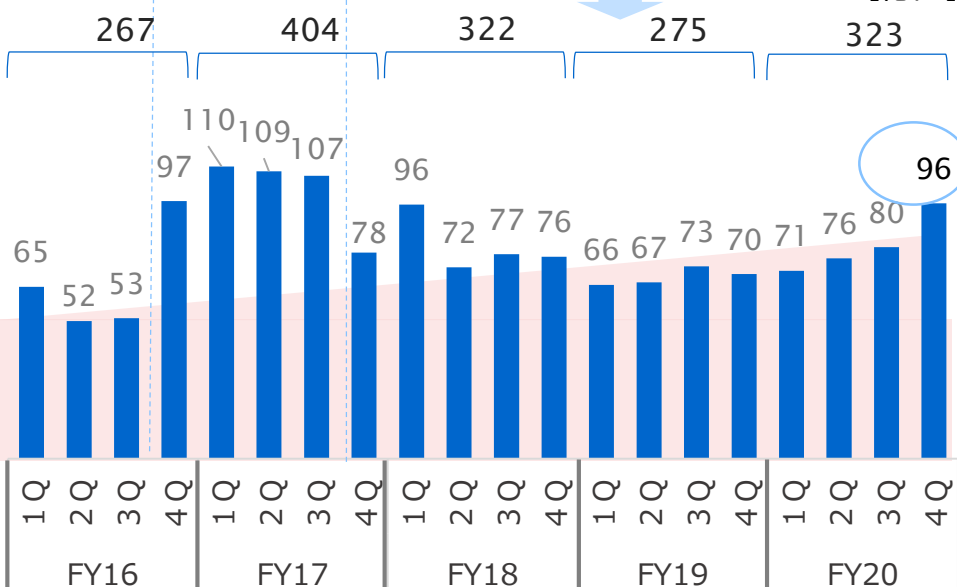
- 光源色向けは大手顧客の需要が大きく伸長。物体色向けは市場回復基調が継続。外観計測は大手自動車メーカーからの新規受注を複数獲得。
- HSI（ハイパースペクトルイメージング）領域へ参入し、Specim社の連結を開始。

・大手顧客の需要増  
・Specim社買収（HSI）

顧客のOLED  
関連大型投資

Eines Systems社  
買収（外観計測）

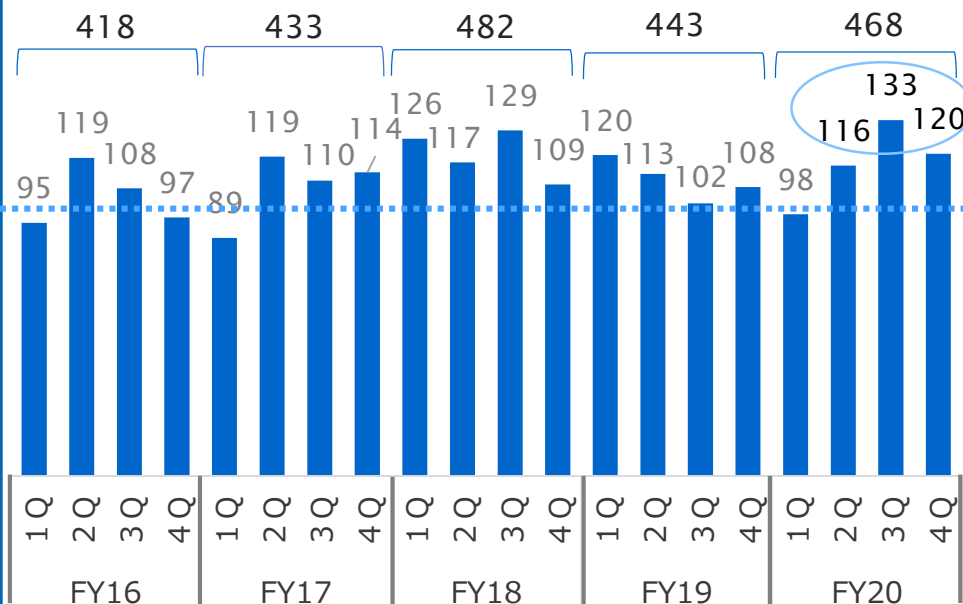
【億円】



## 機能材料

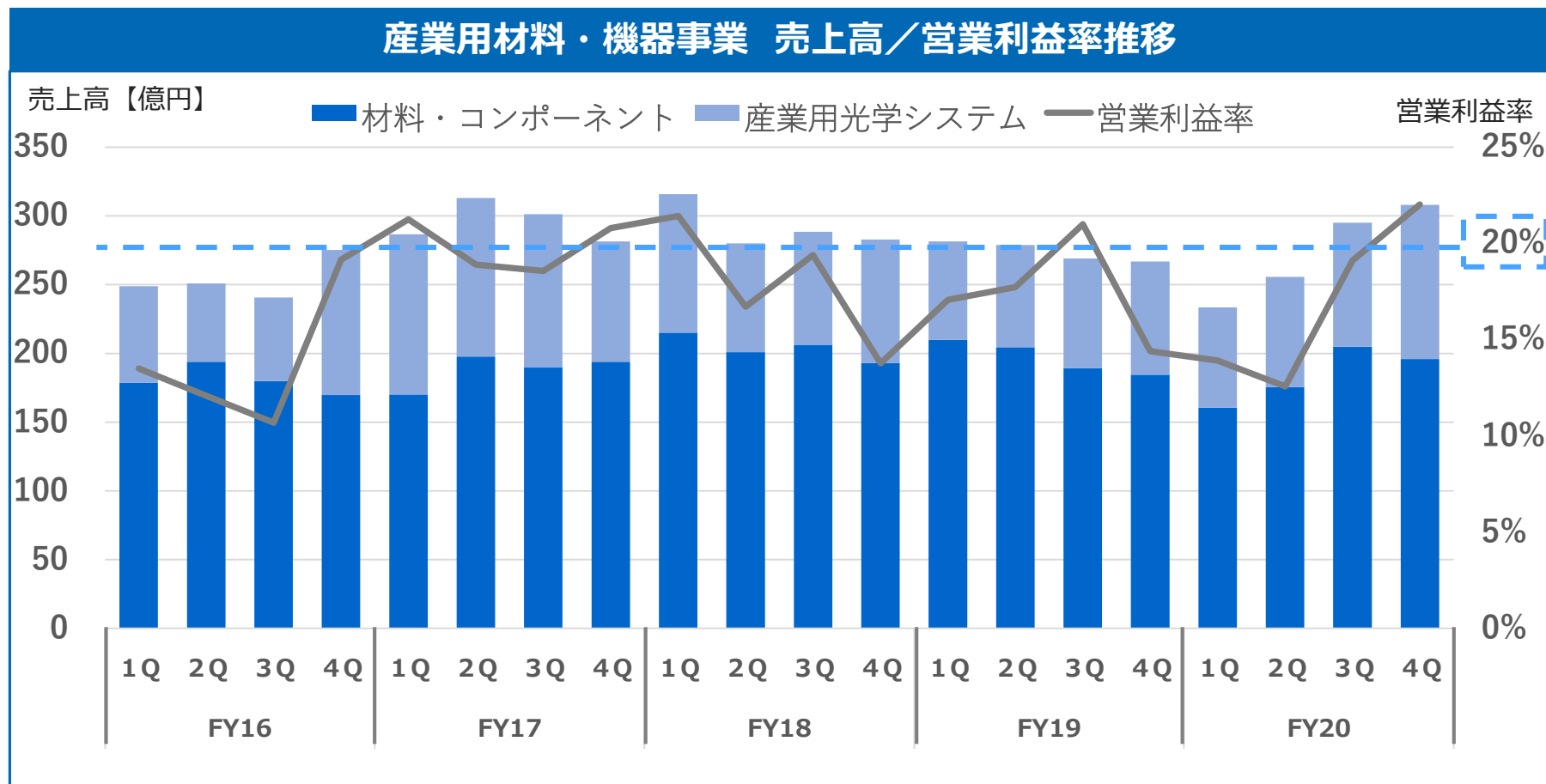
- 液晶テレビ向け位相差フィルムや、PC、タブレット及びスマートフォン用薄膜フィルム等の高付加価値製品に集中し、需要増に対応。2Q以降、高水準の販売。
- 新樹脂フィルム「SANUQI」の本質価値も市場に浸透、販売数量及び顧客裾野の拡大進む。

【億円】



100億  
ライン

- 計測機器・機能材料・IJコンポは売上増により利益率も向上。
- 計測機器は、高付加価値ディスプレイ産業の深耕とリサイクル・食品・リモートセンシング・製薬等への新たな展開で売上利益の同時成長を目指す。



※ 材料・コンポーネント：機能材料、IJコンポーネント、光学コンポーネント 産業用光学システム：計測機器、映像ソリューション

【億円】

	2021年度 業績見通し	2020年度 実績	増減	増減率
売上高	9,400	8,634	+766	+ 9%
売上総利益 (売上総利益率)		3,747 43.4%		
販売管理費		3,897		
営業利益	360	△ 163	+523	-
親会社の所有者に帰属する 当期利益	190	△ 152	+342	-
設備投資額	515	577		
研究開発費	670	650		
FCF	175	437		
投融資	155	93		
為替レート [円] USD	105.0	106.1	△ 1.1	
EUR	125.0	123.7	+1.3	

■ 前提：為替レートはUSドル=105円、ユーロ=125円

収益力の回復

- **売上高**：20年度比9%の増収を見込む
  - ✓ 20年度上期コロナ禍で落ち込んだ事業の売上回復
  - ✓ コロナ禍で需要が顕在化した事業の拡大
- **売上総利益**：3pt程度の改善の想定
  - ✓ 売上回復、地域・製品構成の改善、ノンハードの回復
  - ✓ インダストリー、プレジジョンメディシンなど高付加価値事業の売上拡大
- **販管費**：四半期1,000億円未満の経費構造を維持
- **営業CF創出力の強化継続**：年間1,000億円にチャレンジ
- **ポートフォリオ転換**：IR dayで示した方針の実行  
営業利益に対し▲40億円影響（一過性）

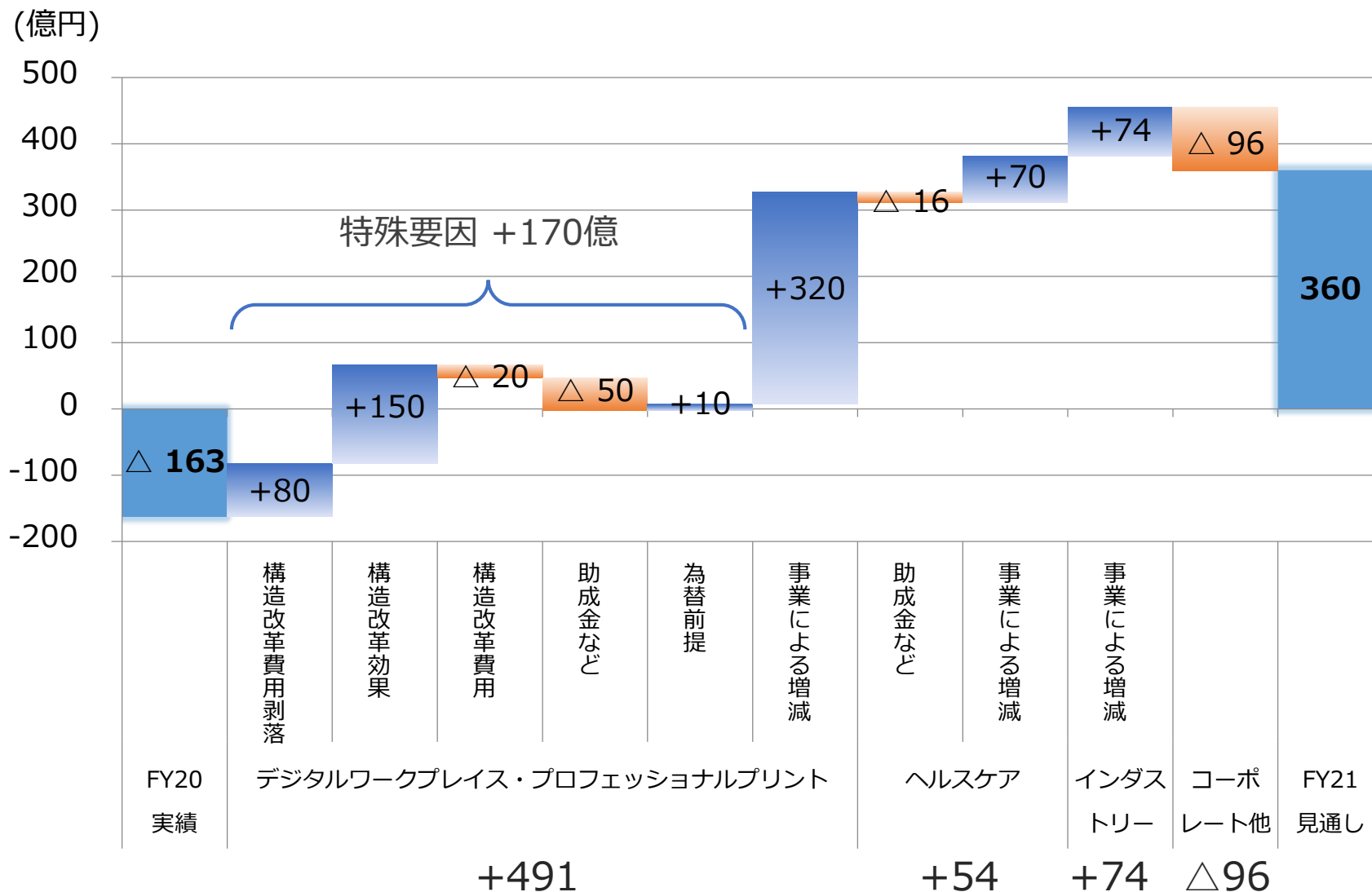
## ■ 通期営業利益360億円に対するリスク要因

- **アップサイド**：ワクチン効果による需要回復の早期化
- **ダウンサイド**：需要急回復に伴う部材高騰の長期化

# 2021年度 業績見通し | 20年度からの営業利益増減要因



KONICA MINOLTA



# 2021年度 業績見通し | 事業セグメント別売上高と営業利益

【億円】

売上高	2021年度 業績見通し	2020年度 実績	差異	前期比
デジタルワークプレイス事業	5,000	4,652	+348	+ 7%
プロフェッショナルプリント事業	2,030	1,696	+334	+ 20%
ヘルスケア事業	1,220	1,091	+129	+ 12%
ヘルスケア	850	834	+16	+ 2%
プレジジョンメディシン	370	257	+113	+ 44%
インダストリー事業	1,445	1,182	+263	+ 22%
センシング	390	323	+67	+ 21%
材料・コンポーネント	865	737	+128	+ 17%
画像IoTソリューション	190	122	+68	+ 55%
コーポレート他	△ 295	13	△ 308	-
全社合計	9,400	8,634	+766	+ 9%

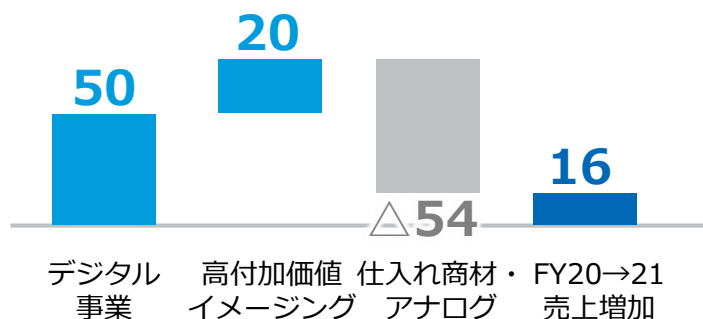
営業利益 (右側：営業利益率)	2021年度 業績見通し		2020年度 実績		差異	前期比
デジタルワークプレイス事業	325	6.5%	△ 27	-	+352	-
プロフェッショナルプリント事業	60	3.0%	△ 79	-	+139	-
ヘルスケア事業	△ 10	-	△ 64	-	+54	-
インダストリー事業	230	15.9%	156	13.2%	+74	+ 47%
コーポレート他・連調	△ 245	-	△ 149	-	△ 96	-
全社合計	360	3.8%	△ 163	-	+523	-



FY20⇒21年度売上増の要因【億円】		利益成長ドライバー												
デジタルワークプレイス	<p>OP</p> <table border="1"> <tr> <th>要因</th> <th>金額(億円)</th> </tr> <tr> <td>ハード</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>ノンハード (FY19対比84%)</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>DW-DX</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td><b>FY20→21売上増加</b></td> <td><b>348</b></td> </tr> </table>	要因	金額(億円)	ハード	95	ノンハード (FY19対比84%)	120	DW-DX	133	<b>FY20→21売上増加</b>	<b>348</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特殊要因による増益 約150億</li> <li>■ 事業による増益 約200億</li> <li>・ MFP新製品フルラインナップによる大口案件獲得増</li> <li>・ One Rate（粗利増）、AI活用顧客別最適提案</li> <li>・ DW-DX:             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドキュメントワークフローソフト自社品置換え(粗利増)</li> <li>・ サービスバックオフィス業務の外部委託活用(粗利増)</li> <li>・ サイバーセキュリティ診断+WPH(MITサービス差異化)</li> <li>・ 自治体を中心とした電子申請/承認へのプロセス転換</li> </ul> </li> <li>・ 開発費削減（WPH専用OS中止△20億、オフィス開発テーマ絞り込み△20億）</li> </ul>		
要因	金額(億円)													
ハード	95													
ノンハード (FY19対比84%)	120													
DW-DX	133													
<b>FY20→21売上増加</b>	<b>348</b>													
プロフェッショナルプリント	<p>PP</p> <table border="1"> <tr> <th>要因</th> <th>金額(億円)</th> </tr> <tr> <td>LPP/MPP</td> <td>155</td> </tr> <tr> <td>HPP</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>IP</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>MS</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td><b>FY20→21売上増加</b></td> <td><b>334</b></td> </tr> </table> <p>(ノンハードFY19対比90%)</p>	要因	金額(億円)	LPP/MPP	155	HPP	45	IP	76	MS	56	<b>FY20→21売上増加</b>	<b>334</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特殊要因による増益 約20億</li> <li>■ 事業による増益 約120億</li> <li>・ HPP・IP組み合わせによる中大手印刷会社での事業拡大</li> <li>・ HPP同等機能搭載のLPP/MPP新製品が販売牽引</li> <li>・ 差別化オプションIQ-501の中・高速領域への標準搭載による差異化、顧客内PVシェア増によるPV拡大</li> <li>・ 中速ラベル印刷機を投入</li> <li>・ 20年度過去最大となった中国PP販売の更なる拡大</li> <li>・ 開発・生産連携によるユニット化コストダウン</li> </ul>
要因	金額(億円)													
LPP/MPP	155													
HPP	45													
IP	76													
MS	56													
<b>FY20→21売上増加</b>	<b>334</b>													
共通		半導体逼迫、部材価格高騰の影響を上期に織り込み												

## FY20⇒21年度売上増の要因【億円】

ヘルスケア



## 利益成長ドライバー

20年度比 9億円増益

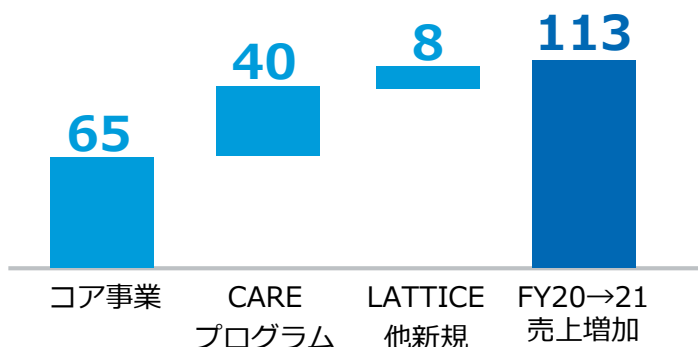
### ■ デジタル事業の強化

- ・ アジアでのデジタル事業の拡大
- ・ 医療ICTサービス「Infomity」を活用した遠隔診断サービスへの参入

### ■ 高付加価値イメージングの強化

- ・ 高付加価値DR一体型X線システム販売拡大
- ・ 動態解析の日・米・中での臨床価値確立

プレジジョンメディシン



20年度比 45億円増益

### ■ コア事業成長と新プラットフォームによる売上増

- ・ Ambry：RNA検査による差別化で遺伝子診断受注増
- ・ Invicro：治験再開により画像治験サービス収益拡大
- ・ CAREプログラムの米日展開
- ・ LATTICEプラットフォーム展開

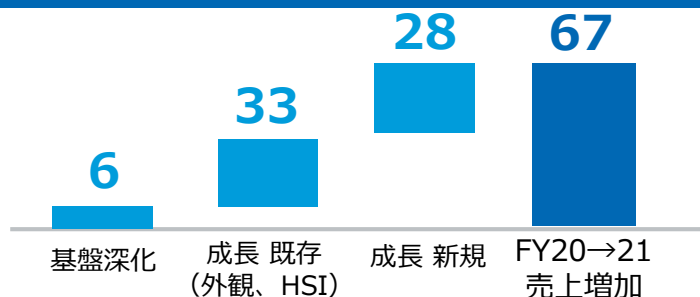
### ■ 遺伝子検査精度／効率upによる粗利改善、解析時間短縮と原価低減を両立

- ・ 最新高速遺伝子解析装置の導入、下期本格稼働
- ・ データ保存のクラウド化、コスト低減（AWS連携）

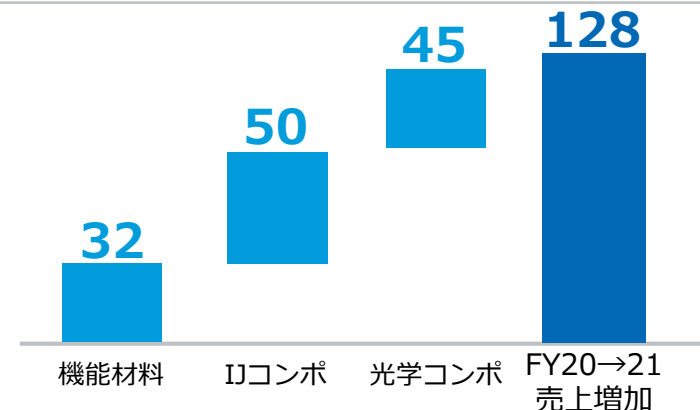


## FY20⇒21年度売上増の要因【億円】

計測機器



材料・コンポーネント



画像IoT



## 利益成長ドライバー

### ■ 基盤事業（光源色・物体色）の深化

- ディスプレイ向け新用途/新技術向け拡大

### ■ 成長事業の顧客価値創出

- 自動車外観計測（Eines社）等の販路とアプリ拡大
- Specim社に戦略的な投資を加え、食品、製薬等の産業に拡大

### ■ 機能材料（PM）：成長領域中心に+7%伸長

- 大型TV向け、新樹脂による超大型領域の拡大
- 中小型モバイル多様化に対応した新機能フィルム展開加速

### ■ IJコンポーネント（IJ）：用途拡大にて+40%伸長

- 高耐久性の強みを活かしてPOD領域での強化
- MEMSによる包装材料、建材向けの拡大

### ■ 光学コンポーネント（OC）：産業用途で+30%伸長

- 移動体センシングと監視・観察分野の拡大

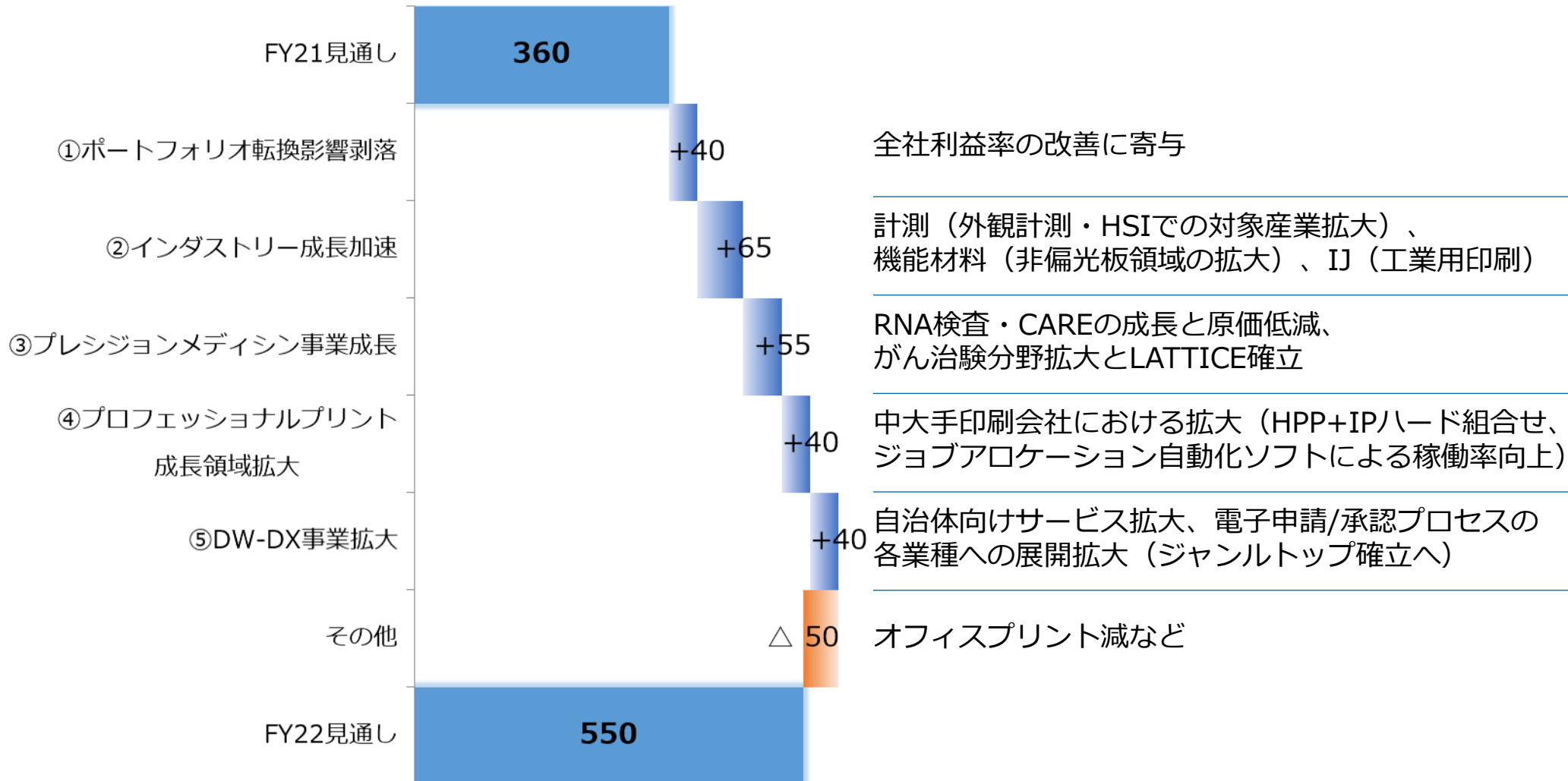
### ■ 画像IoTソリューション（IIS）

- Mobotixを活用したマネージドセキュリティの強化、東欧・北米での販売拡大
- 画像IoTプラットフォーム「FORXAI」によるパートナー開拓、スケールアップ

### ■ 映像ソリューション（VS）

- コロナからの回復、直営新規開業、ソリューション拡大

## ■ 22年度の営業利益目線550億円に変更無し 【億円】



## ■ 中長期のゴール：2つのポートフォリオ転換の完遂

- ① オフィス事業のデジタルワークプレイスへの転換
- ② オフィス事業に続く柱となる事業の構築

## ■ ポートフォリオ転換に向けたリソースシフトとキャピタルアロケーション

- 人財：複合機開発人財を成長領域にシフト。画像IoT人財を増強
- 研究開発費：複合機開発テーマを絞り込み、インダストリー、ヘルスケア、デジタルワークプレイスといった成長領域への重点投資
- 営業CFを重視し、ポートフォリオ転換完遂に必要な投資は積極的に実行

## ■ 株主還元

20年度のキャッシュ創出力向上、22年度までの利益改善の蓋然性向上を踏まえ、21年度年間配当見通しは30円/1株（19年度、20年度の実績から5円増配）



**KONICA MINOLTA**

- **本資料の記載情報**  
本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。
- **将来見通しに係わる記述についての注意事項**  
本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。



# 2020年度業績の総括

# 2020年度 業績 | 前年対比



KONICA MINOLTA

【億円】

	2020年度 通期	2019年度 通期	前期比	為替影響を 除く前期比	外部・特殊要因 を除く前期比	2020年度 4Q	2019年度 4Q	前年 同期比	為替影響を 除く前年同期比	外部・特殊要因 を除く前年同期比
<b>売上高</b>	<b>8,634</b>	<b>9,961</b>	<b>△ 13%</b>	△ 13%	+ 2%	<b>2,485</b>	<b>2,491</b>	<b>△ 0%</b>	△ 1%	+ 3%
<b>営業利益</b>	<b>△ 163</b>	<b>82</b>	-	-	-	<b>83</b>	<b>△ 24</b>	-	-	-
親会社の所有者に帰属する <b>当期利益</b>	<b>△ 152</b>	<b>△ 31</b>	-	-	-	<b>54</b>	<b>△ 52</b>	-	-	-
<b>FCF</b>	<b>437</b>	<b>△ 199</b>	-	-	-	<b>359</b>	<b>67</b>	<b>+ 436%</b>	-	-
<b>為替レート(円)</b>										
<b>USDドル</b>	106.1	108.7	△ 2.7			105.9	108.9	△ 3.0		
<b>ユーロ</b>	123.7	120.8	+2.9			127.7	120.1	+7.6		

※外部・特殊要因：為替、米中関税、CRE関連損益、構造改革費用、減損等一過性費用、COVID-19影響

## 売上高

- 全社：需要回復と成長領域増収で1Q△28%、2Q△17%、3Q△8%、4Q△0%と回復継続。
- 事業別：ITS/WPH、計測機器/機能材料/画像IoTが年間増収。加えて4Qは産業印刷、ヘルスケア、IJコンポが増収。出社制限や来院制限などの影響を大きく受けた事業が減収。
- 地域別：中国・日本・アジアが増収継続、欧州の回復は91%止まりも米国が93%まで加速。

## 営業利益/ 資本効率

- 営業利益：オフィス、プレジジョンメディシンなど想定を下回ったが、為替影響除く実質四半期販管費1,000億円未満を継続。黒字幅を拡大し4Q増益。
- 当期利益：金融収支、税金費用の改善により4Q増益幅が見込みより拡大。
- 資本効率向上、手元流動性確保：在庫回転日数は想定未達もCCC改善などによりQoQで営業CF黒字拡大し、FCF黒字も大幅に拡大。

# 2020年度 業績 | 事業セグメント別売上高と営業利益

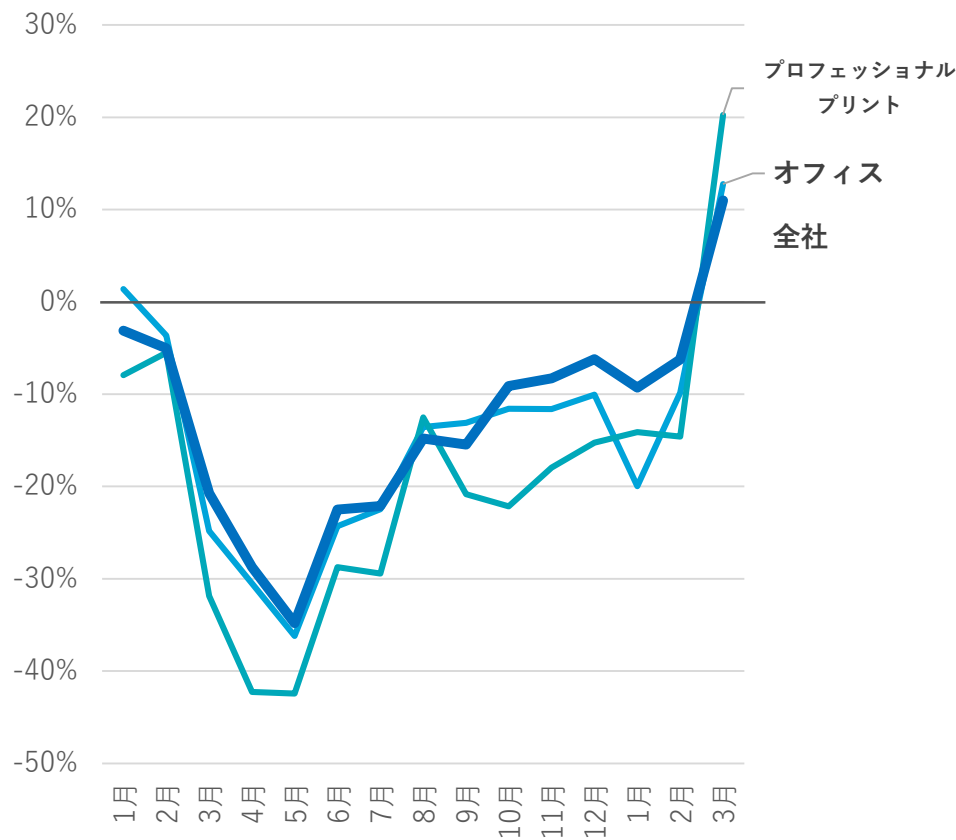
【億円】

売上高	2020年度	2019年度	前年	為替影響を	外部・特殊要因	2020年度	2019年度	前年	為替影響を	外部・特殊要因
	通期	通期	同期比	除く前期比	を除く前期比	4Q	4Q	同期比	除く前年同期比	を除く前年同期比
デジタルワークプレイス事業	4,652	5,490	△ 15%	△15%	+0%	1,289	1,354	△ 5%	△6%	+1%
プロフェッショナルプリント事業	1,696	2,101	△ 19%	△19%	+0%	508	514	△ 1%	△3%	+1%
ヘルスケア事業	1,091	1,185	△ 8%	△6%	+8%	355	330	+ 8%	+9%	+8%
インダストリー事業	1,182	1,172	+ 1%	+2%	+9%	328	289	+ 14%	+14%	+6%
センシング	323	275	+ 18%	+18%	+19%	96	70	+ 38%	+37%	+20%
材料・コンポーネント	737	788	△ 7%	△6%	+5%	196	185	+ 6%	+7%	+0%
画像IoTソリューション	122	109	+ 13%	+12%	+17%	35	34	+3%	+0%	+6%
コーポレート他	13	13	△ 2%	+4%	+7%	5	5	△4%	△1%	△1%
<b>全社合計</b>	<b>8,634</b>	<b>9,961</b>	△ 13%	△13%	+2%	<b>2,485</b>	<b>2,491</b>	△0%	△1%	+3%

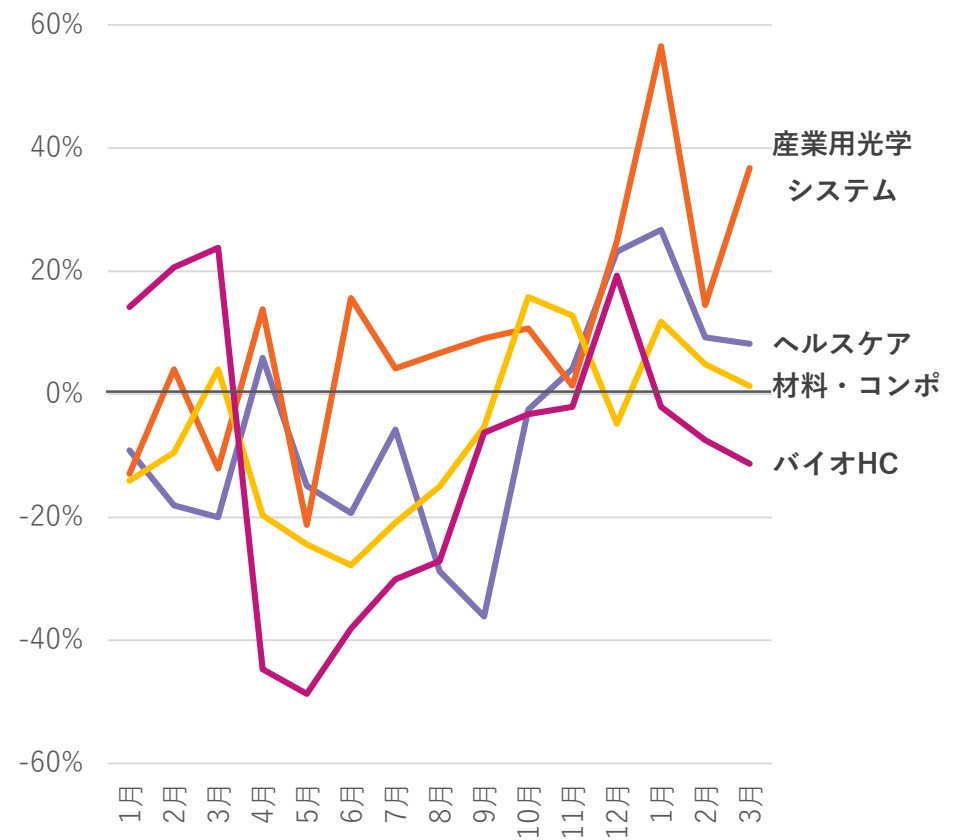
営業利益 (右側：営業利益率)	2020年度	2019年度	前年	為替影響を	外部・特殊要因	2020年度	2019年度	前年	為替影響を	外部・特殊要因	
	通期	通期	同期比	除く前期比	除く前年同期比	4Q	4Q	同期比	除く前年同期比	除く前年同期比	
デジタルワークプレイス事業	△ 27	177	-	-	-	35	1	2.7%	+2338%	+1658%	+3675%
プロフェッショナルプリント事業	△ 79	44	-	-	-	9	△7	1.8%	-	-	-
ヘルスケア事業	△ 64	△ 44	-	-	-	7	△6	1.9%	-	-	-
インダストリー事業	156	144	+8%	+13%	+56%	58	32	17.7%	+80%	+90%	+55%
コーポレート他	△ 149	△ 239	-	-	-	△ 26	△45	-	-	-	-
<b>全社合計</b>	<b>△ 163</b>	<b>82</b>	-	-	-	<b>83</b>	<b>△24</b>	<b>3.4%</b>	-	-	-

全社としては5月をボトムとした回復基調が継続。オフィス・プロプリは1-2月回復が停滞も3月に大幅回復。計測・材料コンポ・ヘルスケアは大きく伸長。※旧セグメントで記載

全社・事業別売上高 対前年増減率 月次推移



事業別売上高 対前年増減率 月次推移

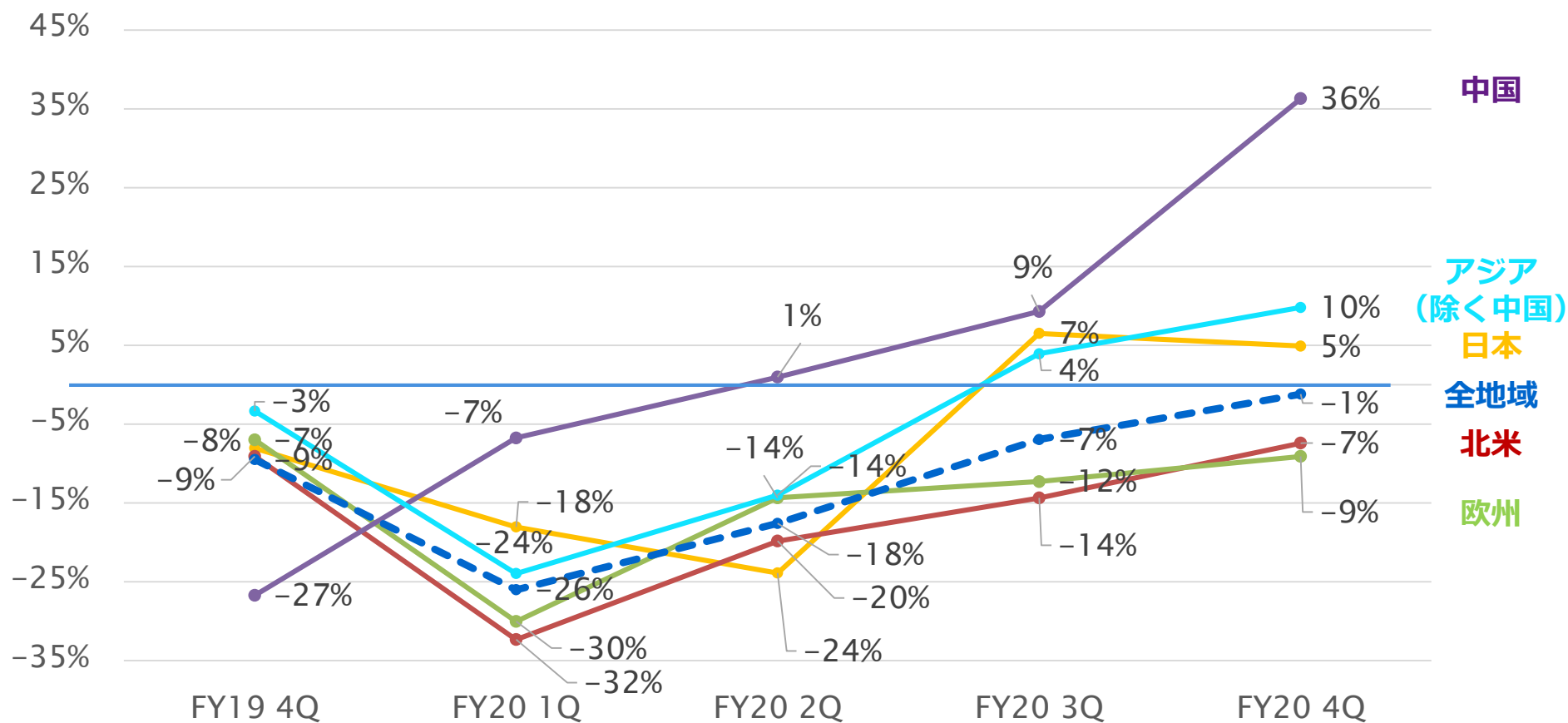


※ ヘルスケアの8-9月の減収は前年消費税増税前駆け込み需要の反動減



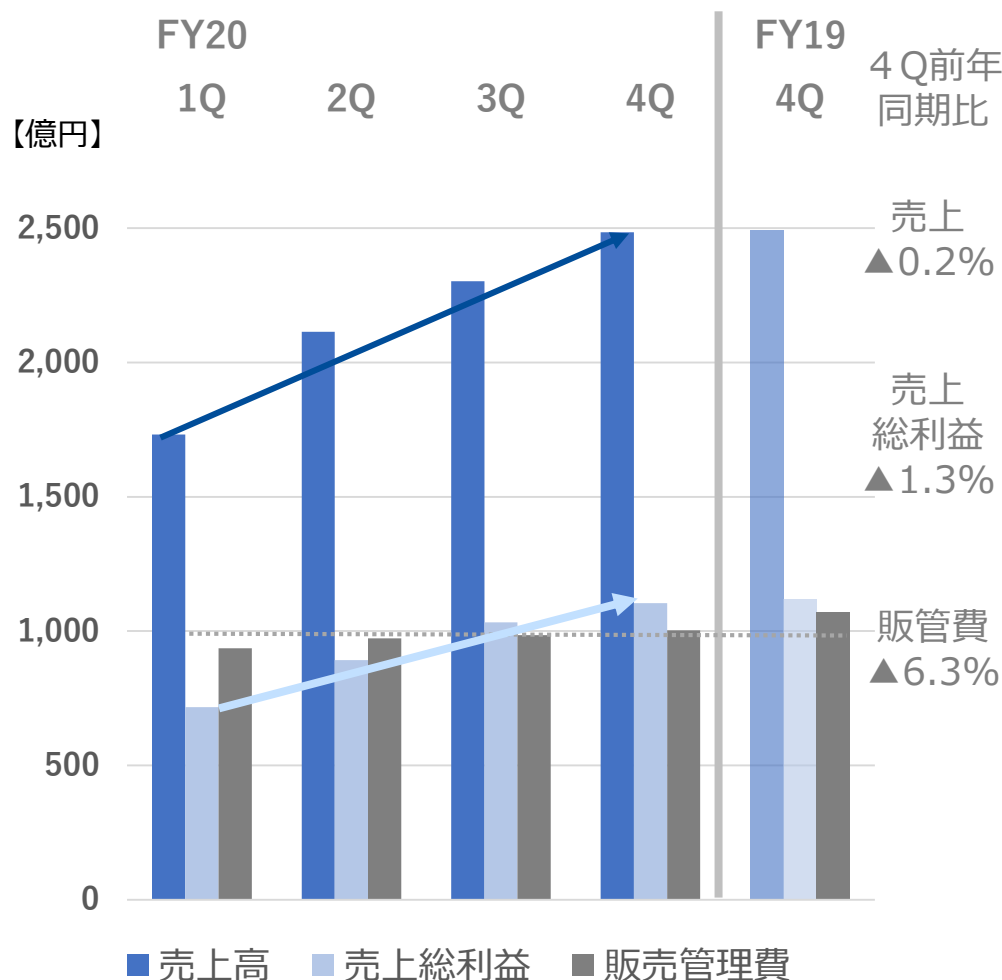
19年4QにCOVID-19の影響を最も強く受けた中国経済が急速に回復し増収継続、日本・アジアが3Qで増収に転じ安定、欧州の回復は鈍化し4Qで北米の回復が加速。

地域別売上高(現地通貨ベース)対前年増減率推移



スリム化した経費構造を維持しながら、需要回復と成長領域拡大で着実に売上高を回復継続、4Qで利益を更に増加。

売上高/粗利/販売管理費



### 売上総利益

- 売上回復に伴い、QoQで粗利額が改善
- 粗利率はハード回復先行/ノンハード回復遅延によるミックス及び、地域/チャンネルミックスの影響でQoQでの改善が停滞も、今後の改善を見込む

### 販売管理費

- 1Qから継続して1,000億円未満（為替除く実質）
- 顧客接点及び需要創出活動のDX化（非対面営業/ウェビナー/オンラインデモ）
- 上記による広告宣伝・旅費交通費・物流費削減

### 総固定費（売上原価内・販管費内固定費）

- FY19実施及びFY20上期開始の構造改革などにより、労務費を中心に削減継続（4Q増は為替と新規連結）

【億円】

	FY20	1Q	YoY	2Q	YoY	3Q	YoY	4Q	YoY
総固定費	1,267	△203	1,191	△242	1,322	△128	1,332	△67	
うち総労務費	793	△107	789	△87	815	△78	829	△28	

## 下期重点施策の4Q進捗は概ね予定通り進捗。来期以降に向けて成果を拡大。

	4Q重点取組み	
デジタル ワークプレイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• i-Seriesフルラインナップ訴求、コロナ影響の少ない顧客業種・地域での販売強化</li> <li>• 今期緊急施策による経費圧縮、来期に向けた収益構造改革の完遂</li> <li>• ITS/WPHは米国での教育機関、独製造業、国内自治体など案件の売上加速</li> </ul>	● ● ●
プロフェッショナル プリント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 拡大しているHPPパイプライン案件の確実なクローズ</li> <li>• LPP新製品の販売本格化（当社顧客機置き換え、他社機置き換え）</li> <li>• 印刷通販などで好調な中堅大手印刷会社への販売注力</li> </ul>	● ● ●
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 看護支援システム、オンライン診療PF販売開始。動態解析・PACS販売加速</li> <li>• 唾液によるDNA検査販売注力(CARE含む)と最新NGSによる原価低減</li> <li>• CARE for COVID起点とした企業向けCARE program契約の獲得</li> </ul>	● ● ●
インダストリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 計測機器：21年モデル案件の取り込み拡大。Micro/Mini LED案件拡大</li> <li>• 計測機器：Specim社のPMIと収益貢献開始</li> <li>• 機能材料：需要堅調なTV用位相差売上拡大。スマホ/タブレット用超薄膜拡大</li> <li>• 画像IoT：ガス漏洩検査カメラを活用した防災診断サービス、フォークリフト事故低減サービスなどFORXAIを活用してパートナー企業とサービス展開開始</li> </ul>	● ● ● ●
全社	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 港湾混雑対策を講じ、期末受注残の最小化で在庫回転日数3ヶ月以下の達成</li> <li>• オペレーションのDX化加速による生産効率向上で、販管費1,000億円未滿継続</li> <li>• 事業ポートフォリオ転換加速のための各種施策を進展</li> </ul>	● ● ●

	主要KPI進捗など(YoY)				4Q変化点分析
	1Q	2Q	3Q	4Q	
デジタル ワーク プレイス	NH売上 69% A3MFP台数 74% ITS売上 86%	NH売上 80% A3MFP台数 86% ITS売上 100%	NH売上 86% A3MFP台数 94% ITS売上 102%	NH売上 84% A3MFP台数 107% ITS売上 112%	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国は増収 Momentum 継続で前年比140%。日本は92%、欧州は78%と停滞。米国は着実に81%まで回復。</li> <li>一方、NH先行指標ともなるHW販売は新製品効果もあり、3月に大幅伸長。</li> <li>ITSは、米国教育機関向け、国内での自治体・金融機関向けワークフローソリューションなどが牽引、増収幅拡大。</li> </ul>
プロフェッ ショナル プリント	PP NH売上 62% PP台数 57% IP NH売上 95%	PP NH売上 75% PP台数 71% IP NH売上 118%	PP NH売上 84% PP台数 67% IP NH売上 130%	PP NH売上 88% PP台数 99% IP NH売上 108%	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国は増収 Momentum 継続で前年比138%。日本は87%、欧州は78%と停滞。米国は着実に82%まで回復。</li> <li>新製品効果もあり、4Qになりカラー機を中心にHWが大きく改善。来期NH回復への兆し。</li> <li>産業印刷は、NHが増収継続。HWは受注残拡大が継続。</li> </ul>
ヘルスケア	DR数量 134% 遺伝子検査数 76% 創薬支援注残 127%	DR数量 77% 遺伝子検査数 104% 創薬支援注残 153%	DR数量 106% 遺伝子検査数 101% 創薬支援注残 166%	DR数量 92% 遺伝子検査数 111% 創薬支援注残 185%	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本は病院を中心に引き続き堅調も、米国での医療機関の投資抑制や先送りの影響が残る。</li> <li>遺伝子診断：米国の感染再拡大もワクチン接種が進み、自宅での唾液検査に加えて、3月より病院など医療機関での遺伝子検査が増加。4月以降の売上に寄与見込み。</li> <li>創薬支援：一部前臨床再開も治験遅れ継続。売上は前年同期並み。受注残（バックログ）金額が継続的に拡大。</li> </ul>
インダス トリー	計測機器売上 71億円 機能材料売上 98億円	計測機器売上 76億円 機能材料売上 116億円	計測機器売上 80億円 機能材料売上 133億円	計測機器売上 96億円 機能材料売上 120億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>光源色向け計測器が大手顧客の需要継続。アジアでのディスプレイ需要を捉えて高水準売上。Specim社連結。</li> <li>大型TV、PC及びスマートフォン用機能性フィルム需要が引き続き高水準。</li> </ul>

※HW=ハードウェア、NH=ノンハード



重点方針		4Q進捗
①収益性の持続的な改善と強化	FY19実施の構造改革効果、製造原価&サービス原価低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>構造改革効果：目標をやや未達（累計実績82億円/年間目標90億円）</li> <li>原価低減：変動費は物量減影響受け未達（固定費削減でカバー）（累計実績29億円/年間目標60億円）</li> </ul>
②手元流動性の確保	事業に集中できる資金手当ての実施。徹底した在庫削減と投資抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>FCF：利益黒字化、在庫回転日数低減、設備投資抑制により、四半期FCF黒字額拡大、累計はFY14以降最高額。</li> <li>期初借入850億円のうち650億円返済、成長事業でのM&amp;A、配当も実施した上で手元流動性に問題無し。</li> </ul>
③固定費削減の徹底	顧客接点对応のDX化による経費構造変革、需要創出活動見直しによる広告宣伝費・旅費交通費・物流費削減、これらによる構造改革。また、助成金の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急施策効果は予定通り進捗（累計実績390億円/年間目標200億円）</li> <li>総固定費削減も累計YoYで640億円削減。うち、総労務費は300億円の削減。</li> <li>販管費は1Qから継続して四半期1,000億円未満に抑制（為替影響除く実質）。</li> </ul>
④資本生産性の向上	KM-ROIC及び投下資本収益管理による事業別資本効率管理強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産量の絞込み、販売フォーキャスト精度の向上で1Qをピークとして回転日数削減継続。年度末の在庫回転月数3カ月未満に対しては港湾混雑対策などで3.4ヶ月。</li> </ul>
⑤組織体制の変革	変化を機会として捉え、自律的、機動的に行動する組織体制を確立。守りと攻めのタスクフォースによる活動推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体DXビジネスの拡大に向け、攻めの人財シフトを含めた効果の早期化・最大化のための活動を強化中</li> <li>ヘルスケアでは、パートナー協業によりパルスオキシメーター生産能力を従来の20倍に引き上げる体制を機動的に構築</li> </ul>

5月をボトムとした売上高の回復基調が継続しているが、4Qに入り欧州回復ペース鈍化。中国、日本、その他アジアが増収、欧州の回復は91%止まりも米国が93%まで加速。

事業	影響	売上影響額	利益影響額
デジタルワーク プレイス/ プロフェッショナル プリント	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハードは顧客訪問を伴う販売活動の制約で商談・設置遅れが影響も、3月に大きく回復</li> <li>ノンハードはオフィスでは顧客企業での出社制限、プロダクションでは顧客の受注減少の影響。昨年6月以降回復基調も1月に落ち込み3月に向けて再び回復基調</li> </ul>	オフィス 200億円強 プロプリ 90億円程度	オフィス 80億円程度 プロプリ 40億円程度
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>来院者減少が継続、地域により病院・クリニックの投資判断に遅れ</li> </ul>	5億円程度	数億円程度
プレジジョン メディシン	<ul style="list-style-type: none"> <li>米国での遺伝子検査数回復基調もロックダウンによる来院患者減影響が3月中旬まで継続。創薬支援は治験延期影響が継続</li> </ul>	35億円強	25億円程度
インダストリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>IJコンポは顧客の輸出先国でのCOVID-19拡大が影響</li> <li>光学コンポはエンターテインメント系需要低迷の影響でプロジェクトレンズの販売に影響</li> </ul>	35億円程度	15億円程度
<b>全社</b>		<b>370 億円程度</b>	<b>160 億円程度</b>

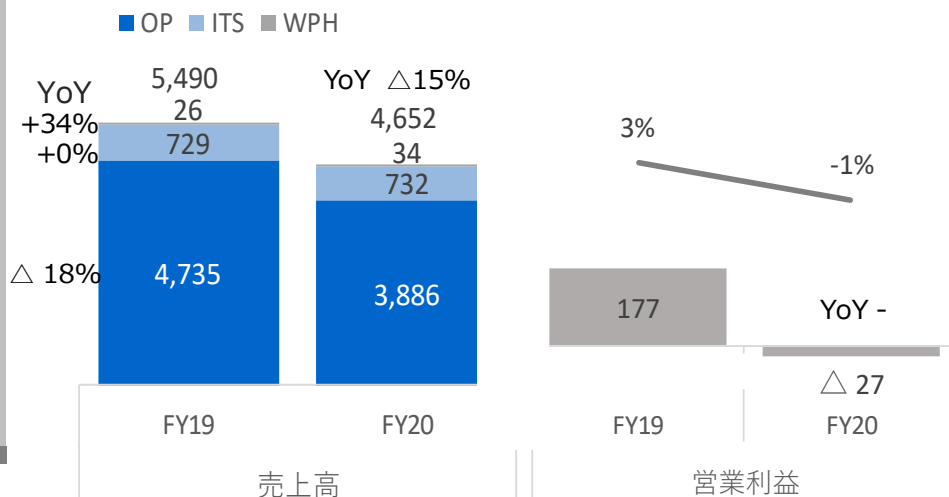
【億円】

## 売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q	
売上高	OP	1,164	1,209	1,196	1,166	
	ITS	181	177	194	177	
	WPH	4	5	5	11	
営業利益		55	78	43	1	
FY20		1Q	2Q	3Q	4Q	YoY
売上高	OP	783	982	1,042	1,079	△ 7%
	ITS	157	177	199	200	+13%
	WPH	6	8	10	11	△ 4%
営業利益		△ 96	3	31	35	+2338%

四半期推移

累計



## 4Qの概況

### オフィス (OP)

- i-Series製品群が出揃い販売台数が着実に回復 (1Q△26%、2Q△14%、3Q△6%、4Q +7%)
- 地域別では中国は増収継続 (186%)、日本が97%、欧州は89%、米国は回復が加速し86%。
- NHは欧米での行動制限継続により1月に落ち込み、3月に向けて改善も4Q合計としては回復が停滞 (82%)。ハード先行回復を受けて来期以降のNH回復を見込む。

### ITサービスソリューション (ITS)

- 米国での教育機関向けMIT、国内自治体や金融機関向けワークフロー・文書管理などで増収幅拡大。

### ワークプレイスハブ (WPH)

- 全世界でWPH Smartに切り替え推進。ITSとの一層の融合を図り、セキュリティやワークフローと組み合わせ、既存MFP顧客への販売が進捗。

【億円】

## 売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q		
売上高	PP	342	354	375	335		
	IP	38	58	51	60		
	MS	126	115	128	119		
営業利益		11	10	29	△ 7		
FY20		1Q	2Q	3Q	4Q	YoY	
売上高	PP	204	271	295	327	△ 2%	
	IP	29	43	48	63	+6%	
	MS	84	102	110	117	△ 2%	
営業利益		△ 71	△ 17	△ 0	9	-	

四半期推移

## 4Qの概況

### プロダクションプリント (PP)

- HPP好調、MPP堅調に加え12月に投入したLPP新製品寄与もあり、カラー機が牽引して3月に躍進。  
(1Q△51%、2Q△29%、3Q△33%、4Q△1%)
- 4Qは1月に落ち込み3月に向けて改善。四半期としても堅調に回復を継続。  
(1Q△38%、2Q△25%、3Q△16%、4Q△12%)。

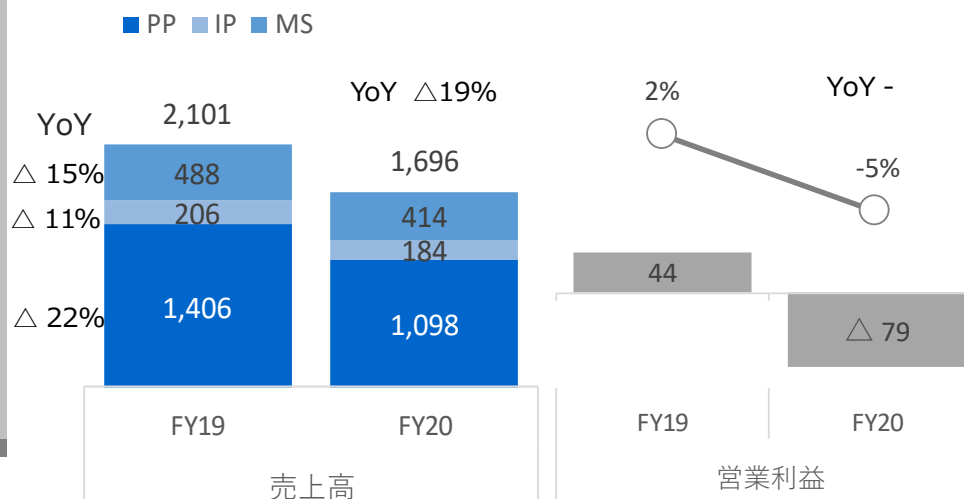
### 産業印刷 (IP)

- HW はラベル機および加飾印刷機の販売が伸長。KM-1eも堅調な販売。NHも2Q以降の増収基調継続。
- 全体の売上が増収に転じ、コロナ前を超過。

### マーケティングサービス (MS)

- 欧米は顧客企業マーケ・販促活動減少で需要減。
- 国内キンコーズは法人顧客の販促イベント中止や、研修オンライン化などで受注減少傾向、店頭来客数減少傾向も、3月には企業研修資料や学生の利用回復により前年並みに。

累計



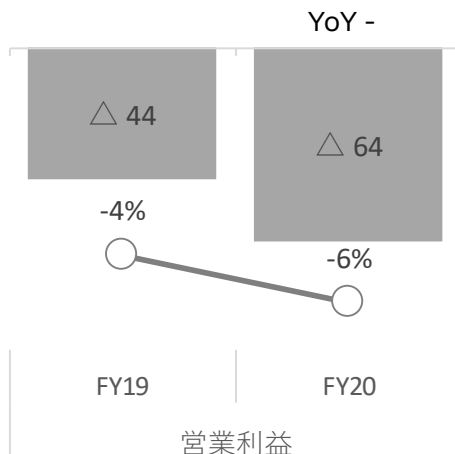
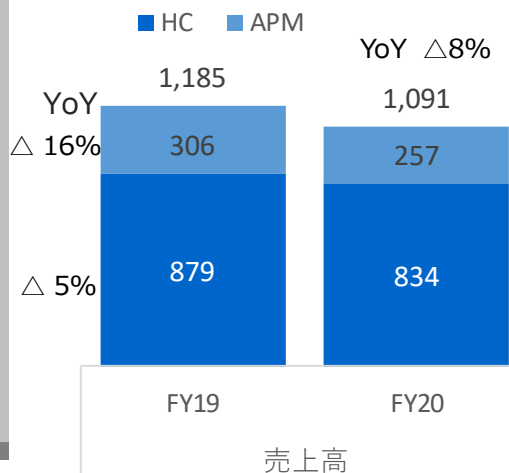


【億円】

## 売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q	
売上高	HC	186	264	181	247	
	APM	72	74	77	83	
営業利益		△ 21	△ 12	△ 4	△ 6	
FY20		1Q	2Q	3Q	4Q	YoY
売上高	HC	164	191	200	279	+13%
	APM	41	59	82	76	△ 8%
営業利益		△ 47	△ 18	△ 5	7	-

四半期推移



## 4Qの概況

### ヘルスケア (HC)

- DRは、国内ではクリニック市場の鈍化の影響残るが、病院市場が伸長。米州、アジアの一部では厳しさ継続したが、欧州、中国、インドは回復。
- 超音波診断装置は、整形外科、透析、産科領域の販売は堅調に推移し、前年同期比で数量増。
- 医療ITは、米国で医療機関の投資抑制が継続するも、国内のinfomityの販売が好調。
- COVID-19対応：パルスオキシメーター増産。生体情報モニタリング、オンライン診療サービスを開始。

### プレジジョンメディシン (APM)

- 遺伝子検査は、CARE Programの展開拡大も寄与しサンプル数は3月でCOVID-19以前の水準に回復。3Qから黒字継続。
- COVID-19検査サービスは米国のワクチン接種加速により検査数減少。Orange Countyの受託継続。
- 創薬支援サービスは、治験参加者の減少によるプロジェクトホールドと受注残拡大が継続するも、売上は前年同期並み。

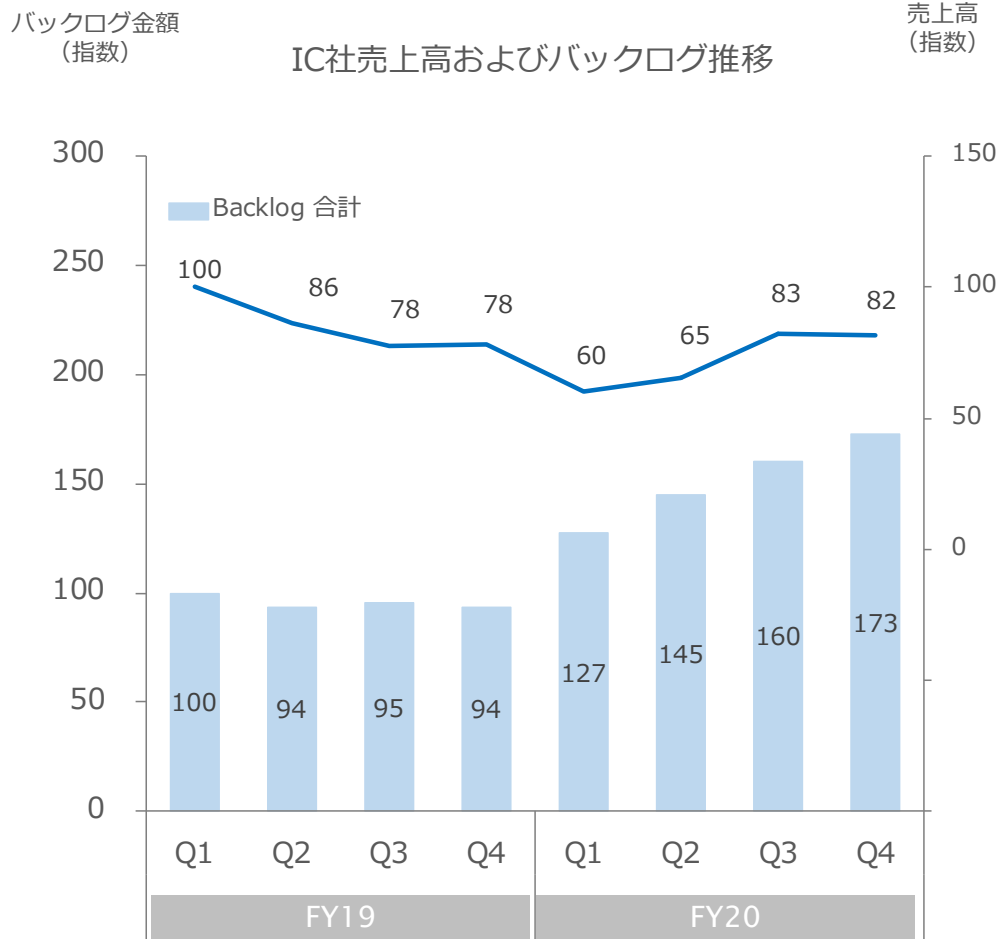
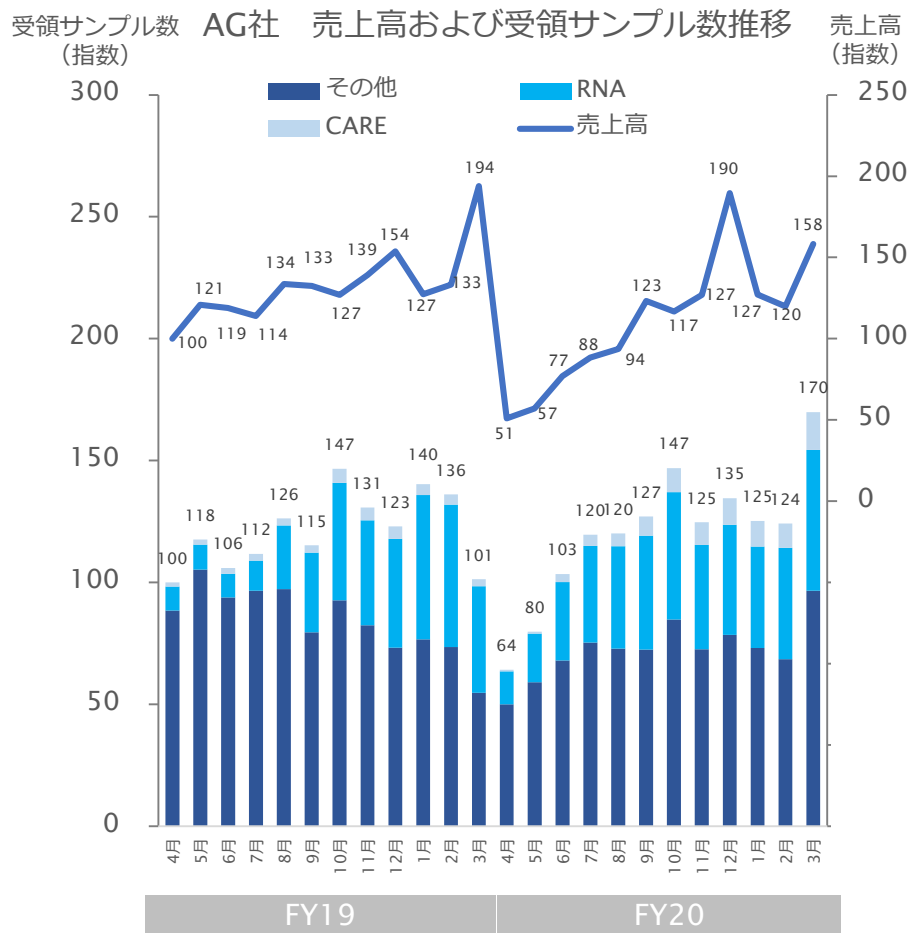
累計

Ambry (AG社)

Invicro(IC社)

※FY19 4月を100とした時の指数

※FY19 1Qを100とした時の指数



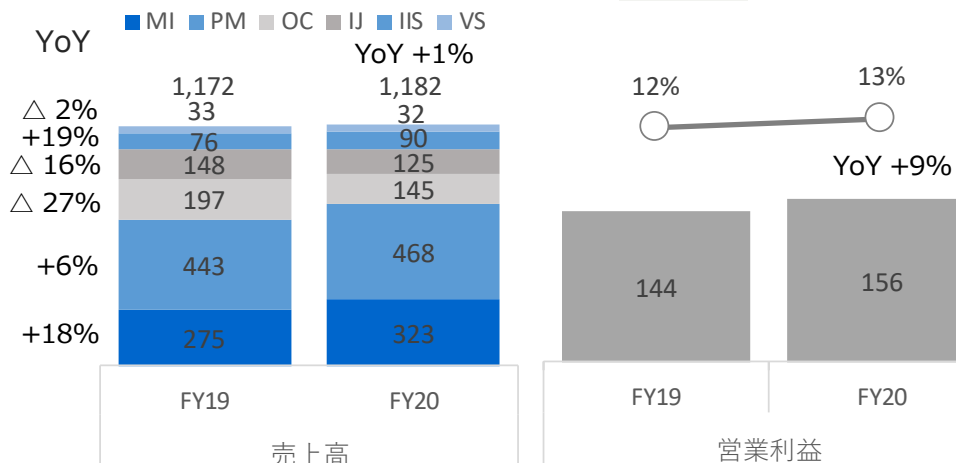
【億円】

## 売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q	
売上高	MI	66	67	73	70	
	PM	120	113	102	108	
	OC	48	53	52	44	
	IJ	42	39	35	32	
	IIS	19	20	16	22	
	VS	6	8	7	12	
営業利益		32	37	42	32	

FY20		1Q	2Q	3Q	4Q	YoY
売上高	MI	71	76	80	96	+38%
	PM	98	116	133	120	+11%
	OC	38	32	40	36	△ 19%
	IJ	25	28	32	40	+23%
	IIS	27	23	20	20	△ 10%
	VS	2	4	10	16	+26%
営業利益		28	22	48	58	+80%



## 4Qの概況

### 産業用光学システム：計測機器 (MI)

- 物体色向け計測器は市場回復基調が継続し売上好調。
- 光源色向けは大手顧客の需要が想定以上に伸長。
- 外観計測は大手自動車メーカーから新規受注を複数獲得。
- HSI事業のSpecim社を連結開始。

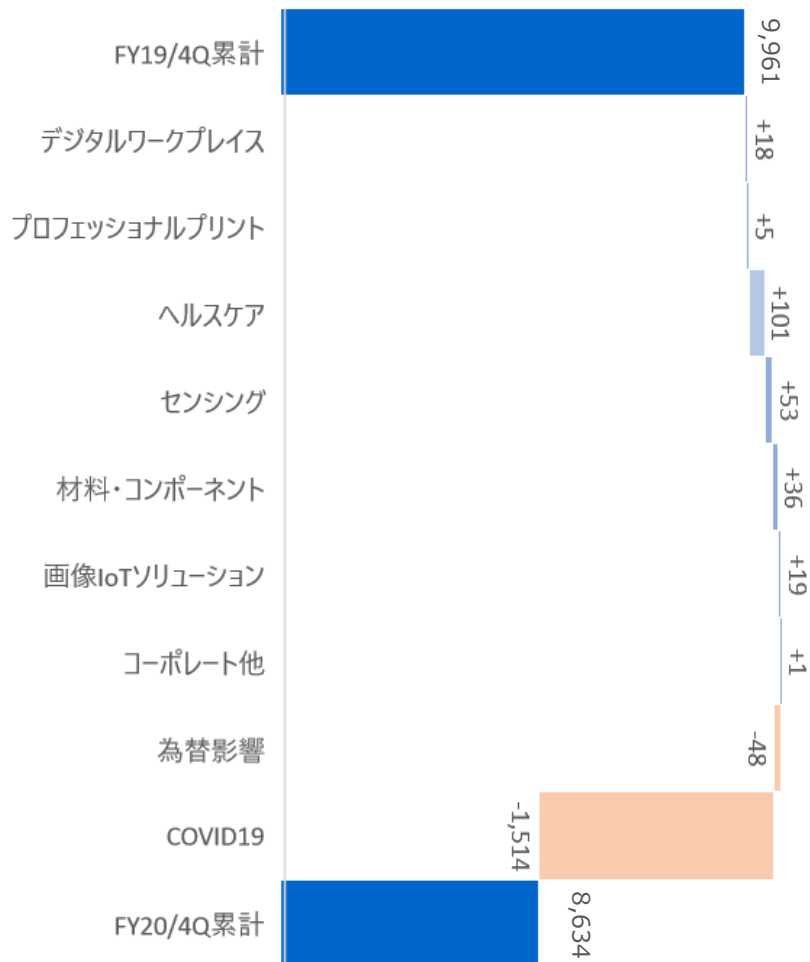
### 材料・コンポーネント：機能材料(PM)、光学コンポーネント(OC)、IJコンポーネント(IJ)

- PM：ディスプレイ向け高付加価値製品が高水準の販売量。また新樹脂SANUQIの本質価値が市場に浸透し、顧客裾野が拡大。前年同期比で増収。
- OC：自動車などの産業用途向けは市場拡大し、販売も堅調に推移。プロジェクター用レンズは依然として需要減が続き、前年同期比で減収。
- IJ：中国に続き、その他アジア地域も回復傾向。大判印刷は高速プリンター向けヘッドでシェア拡大。

### 画像IoTソリューション：画像IoTソリューション(IIS)、映像ソリューション(VS)

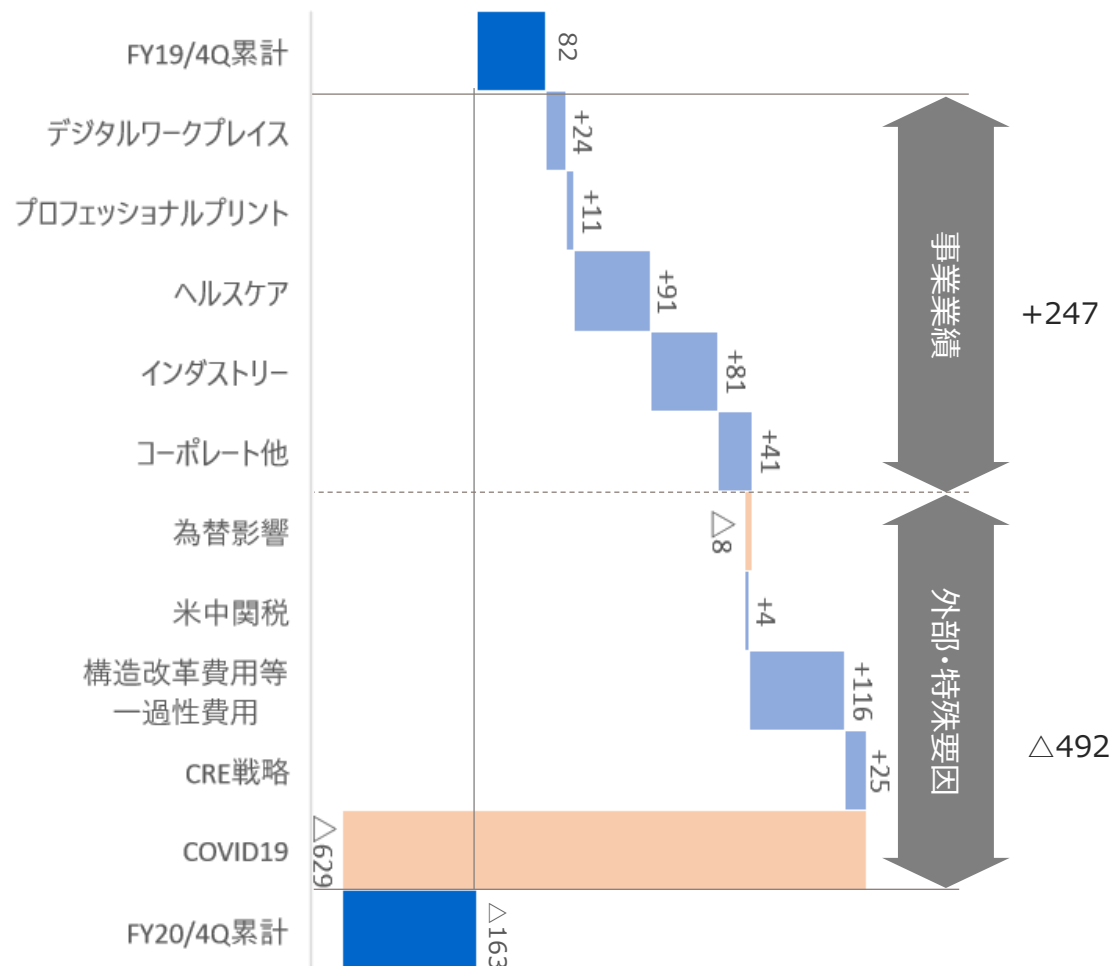
- IIS：非接触MOBOTIXサーマルカメラソリューション等が堅調に推移。画像IoTプラットフォーム「FORXAI（フォーサイ）」を展開し、プラントや倉庫、物流エリアの安心・安全をみえる化するモニタリングサービス開始。
- VS：直営店での徹底した感染対策実施や、クラウド連携新サービス「Connected Dome」展開で増収。

## 売上高 (累計)



## 営業利益 (累計)

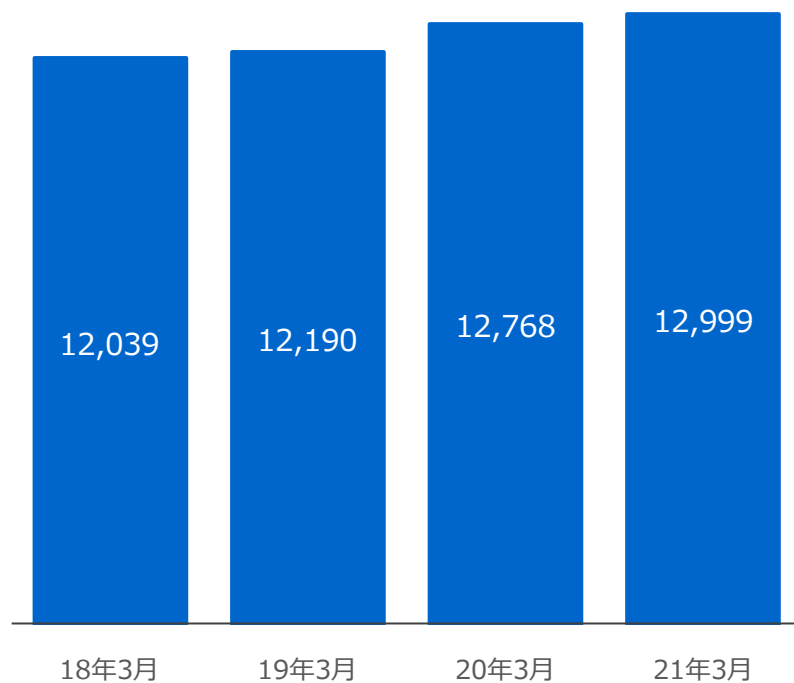
【億円】



### 資産合計（総資産）

【億円】

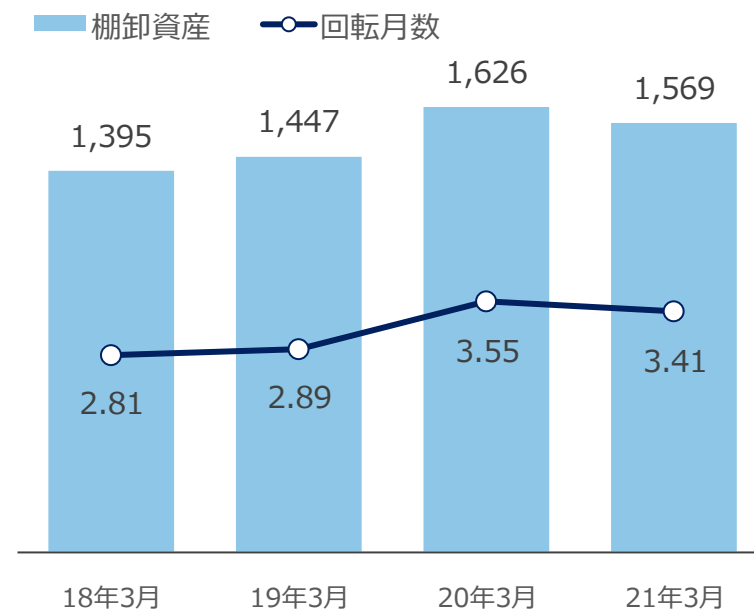
有形固定資産、棚卸資産、営業債権が減少も  
為替影響約400億円により増加。



### 棚卸資産・回転月数

【億円】

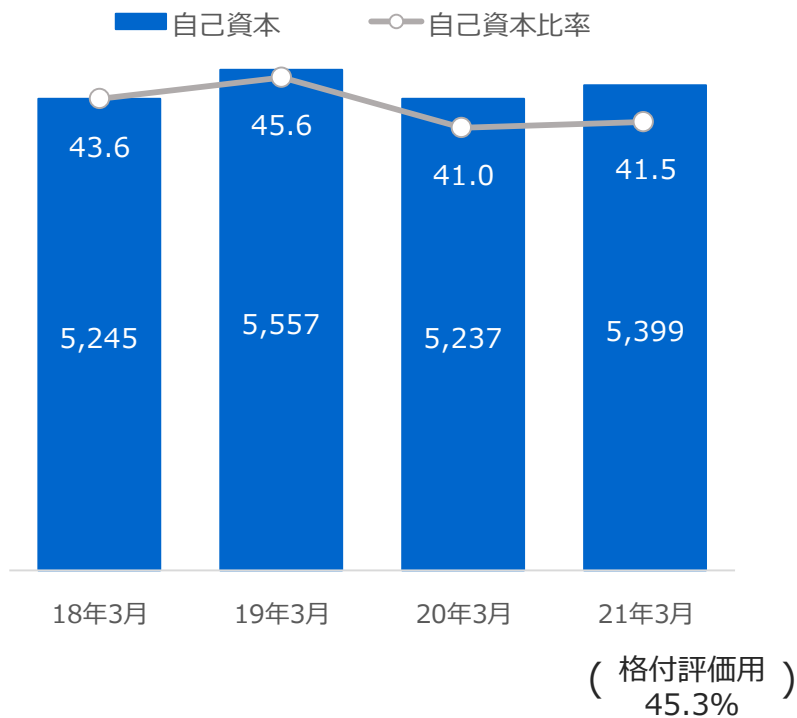
為替影響を除く実質約116億円の減少。  
期末在庫は米国を中心とする港湾混雑対応  
により高止まり。



棚卸資産回転月数 = (当期末棚卸資産残高) / (直近3カ月の平均売上原価)

### 自己資本・自己資本比率 【億円】

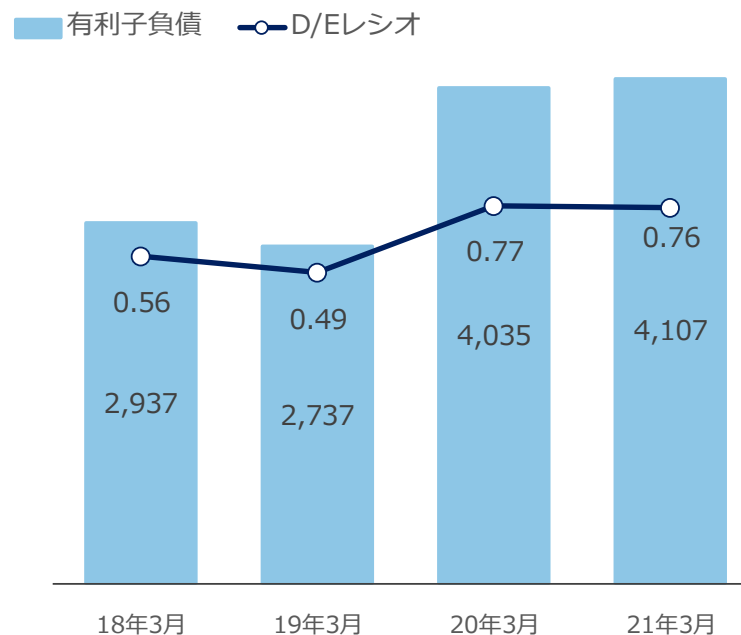
当期損失と配当支払による減少も為替換算差額により増加。



自己資本=親会社の所有者に帰属する持分  
自己資本比率=親会社の所有者に帰属する持分/総資産

### 有利子負債・D/Eレシオ 【億円】

手元現預金とのネットでは減少、ネットD/Eレシオも0.53と前期末より改善。なお、期初借入850億円のうち650億円を当期中に返済。



# Appendix

【億円】

	2020年度 通期	2019年度 通期	前期比	2020年度 4Q	2019年度 4Q	前年 同期比
売上高	8,634	9,961	△13%	2,485	2,491	△ 0%
売上総利益	3,747	4,663	△20%	1,104	1,118	△ 1%
(売上総利益率)	43.4%	46.8%	△ 3.4pt	44.4%	44.9%	△ 0.4pt
営業利益	△ 163	82	-	83	△ 24	-
(営業利益率)	-	0.8%	-	3.4%	-	-
税引前利益	△ 200	3	-	85	△ 53	-
(税引前利益率)	-	0.0%	-	3.4%	-	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	△ 152	△ 31	-	54	△ 52	-
(親会社の所有者に帰属する当期利益率)	-	-	-	2.2%	-	-
E P S (円)	△ 30.75	△ 6.21		11.01	△ 10.60	
設備投資額	577	508		277	166	
減価償却費及び償却費 *	572	570		144	147	
研究開発費	650	740		165	169	
FCF	437	△ 199		359	67	
投融資	93	79		6	29	
為替レート [円] USD	106.1	108.7	△ 2.7	105.9	108.9	△ 3.0
EUR	123.7	120.8	+2.9	127.7	120.1	+7.6

\* 減価償却費及び償却費：IFRS16による使用权資産償却費は含まない





販売管理費	2020年度 通期	2019年度 通期	前期比	2020年度 4Q	2019年度 4Q	前年 同期比	【億円】
販売変動費	338	440	△102	92	101	△9	
研究開発費	650	740	△90	165	169	△4	
人件費	1,861	2,035	△175	480	493	△13	
その他	1,048	1,214	△167	265	307	△42	
販売管理費 計	3,897	4,431	△534	1,003	1,070	△68	
*為替影響額：	△15億円（除く為替 △519億円）			9億円（除く為替 △76億円）			
<b>その他の収益</b>							
有形・無形資産売却益	4	3	+1	3	2	+1	
その他収益	136	44	+93	48	16	+32	
その他の収益 計	140	46	+94	51	17	+33	
<b>その他の費用</b>							
固定資産除売却損	14	37	△23	5	3	+2	
固定資産減損損失	9	14	△5	3	8	△6	
のれん減損損失	-	17	△17	-	17	△17	
事業構造改善費用	81	68	+13	44	43	+0	
その他費用	49	61	△12	17	16	+1	
その他の費用 計	153	197	△44	69	88	△19	
<b>金融収支</b>							
受取利息・受取配当金-支払利息	△38	△48	+10	△11	△19	+8	
為替差損益	6	△27	+33	10	△10	+19	
その他	△5	△2	△3	2	1	+2	
金融収支 計	△37	△77	+39	1	△28	+29	

## 前年同期比較

(FY20/4Q累計 vs. FY19/4Q累計)

	デジタル ワークプレイス	プロフェッショナル プリント	ヘルスケア	インダストリー	コーポレート他	合計
<b>[要因]</b>						
為替影響	+2	△5	△1	△7	+3	△8
数量増減他	△570	△242	△58	△27	△3	△900
価格変動	+1	△12	△1	△10	-	△23
コストダウン	+22	+3	+4	-	-	+29
経費増減	+306	+107	+6	+40	+60	+519
その他収益費用	+35	+27	+29	+16	+31	+138
<b>[営業利益]</b>						
増減額（前年同期比）	△204	△122	△20	+12	+90	△245

## 前年同期比較

(FY20/4Q vs. FY19/4Q)

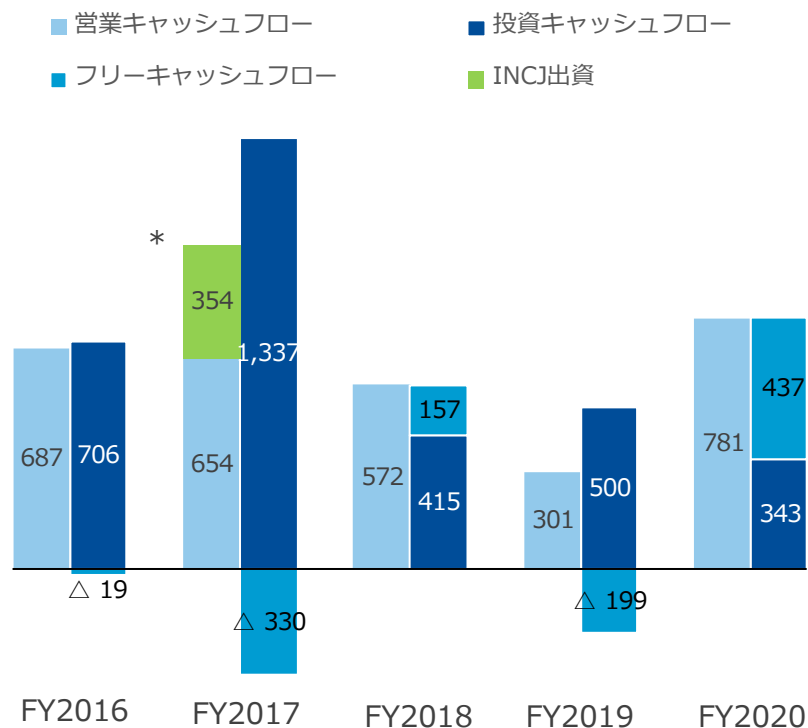
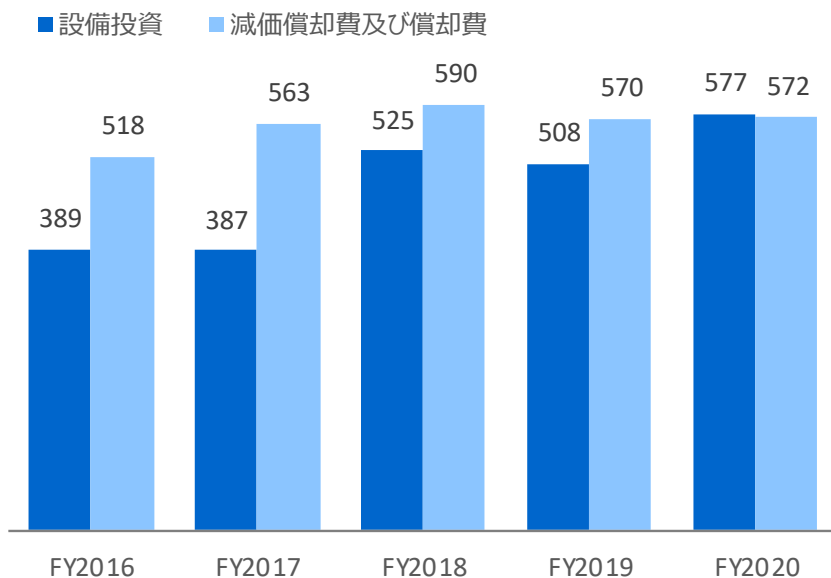
	デジタル ワークプレイス	プロフェッショナル プリント	ヘルスケア	インダストリー	コーポレート他	合計
<b>[要因]</b>						
為替影響	+10	+1	+1	△3	+0	9
数量増減他	△88	△22	+1	+23	△3	△89
価格変動	+46	+1	+6	△3	-	+50
コストダウン	+7	+1	+1	-	-	+9
経費増減	+52	+18	△7	△3	+16	+76
その他収益費用	+8	+17	+11	+12	+5	+53
<b>[営業利益]</b>						
増減額（前年同期比）	+33	+16	+13	+26	+19	+107

## 設備投資・減価償却費及び償却費

【億円】

## フリーキャッシュフロー

【億円】



\* 減価償却費及び償却費：IFRS16による使用权資産償却費は含まない

\*AG社買収時産業革新機構（INCJ）出資分

【為替レート：円】

【影響額、感応度：億円】

	FY19	FY20	対前年影響額		為替感応度*2	
	通期	通期	売上高	営業利益	売上高	営業利益
米ドル	108.74	106.06	△76	+6	+27	△2
ユーロ	120.82	123.70	+53	+14	+15	+4
ポンド	138.24	138.68	+1	+0	+2	+0
欧州通貨*1	—	—	+42	+14	+21	+6
人民元	15.60	15.67	+3	△1	+34	+10
豪ドル	74.14	76.18	+9	+1	+3	+1
その他通貨	—	—	△25	△5	—	—
予約影響額	—	—	+1	△22	—	—
合計	—	—	△46	△8	—	—

\*1欧州通貨：ユーロ/ポンド以外の欧州通貨も含む

\*2為替感応度：1円変動時の影響額（年間）



■ 地域別売上高構成比 (円貨ベース)

	FY18				FY19				FY20			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
日本	13%	12%	12%	12%	12%	13%	13%	14%	15%	14%	14%	14%
北米	33%	33%	33%	33%	34%	33%	33%	33%	33%	32%	31%	31%
欧州	36%	36%	36%	36%	36%	34%	37%	37%	35%	36%	36%	37%
中国	6%	6%	6%	6%	6%	6%	5%	4%	8%	8%	8%	7%
その他	12%	13%	12%	12%	12%	13%	12%	12%	10%	11%	11%	11%

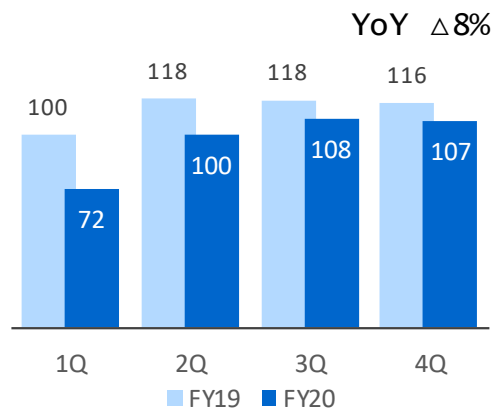
■ 地域別売上高増減 (為替除く)

	FY18				FY19				FY20			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
日本	+4%	+1%	+2%	+3%	△8%	+4%	+1%	△3%	△19%	△18%	△14%	△11%
北米	+5%	+4%	+5%	+4%	△2%	△2%	△3%	△12%	△34%	△27%	△24%	△20%
欧州	+4%	+1%	+1%	+0%	△2%	△1%	+6%	△7%	△31%	△23%	△19%	△17%
中国	+15%	+5%	+8%	+11%	△4%	△1%	△8%	△40%	△4%	+1%	+7%	+16%
その他	+17%	+10%	+11%	+9%	△7%	+2%	+5%	△6%	△35%	△32%	△25%	△20%

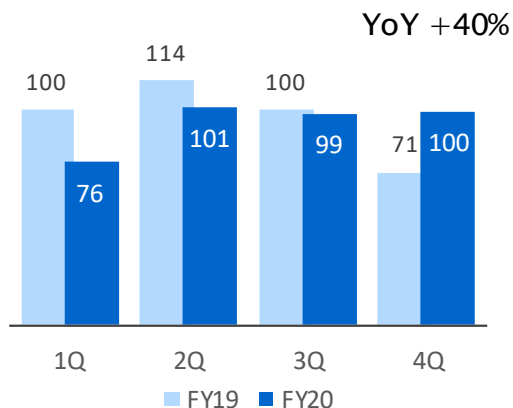
■ ハード売上に占めるカラー比率

	FY18				FY19				FY20			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	4Q	4Q
オフィス	73%	73%	73%	74%	72%	73%	72%	75%	69%	76%	75%	74%
PP	81%	80%	80%	81%	78%	82%	76%	80%	75%	80%	80%	81%

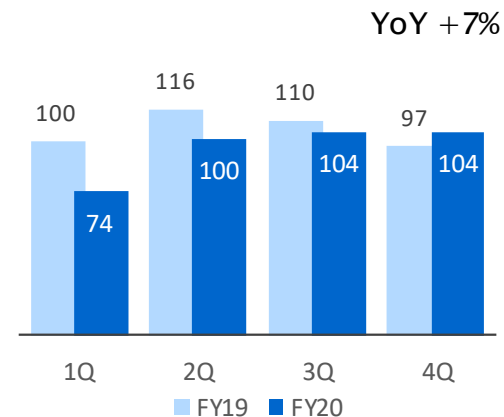
■ A3カラー-MFP 販売台数



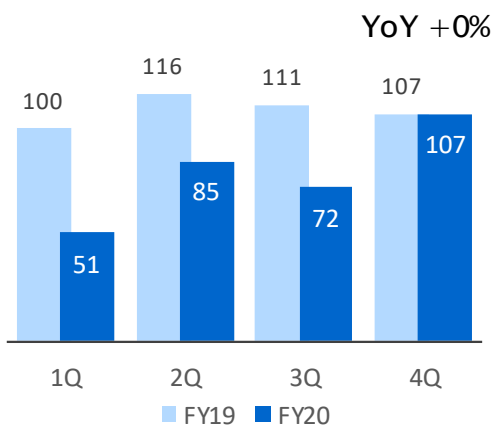
■ A3モノクロMFP 販売台数



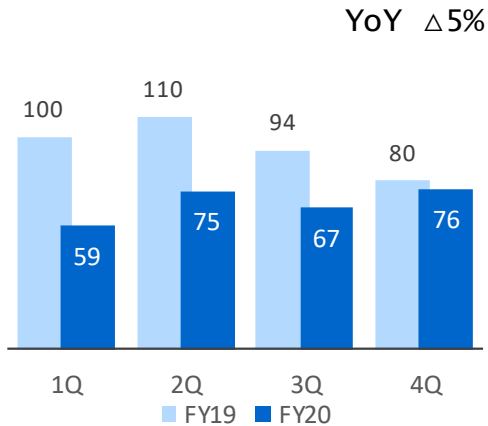
■ A3MFP トータル販売台数



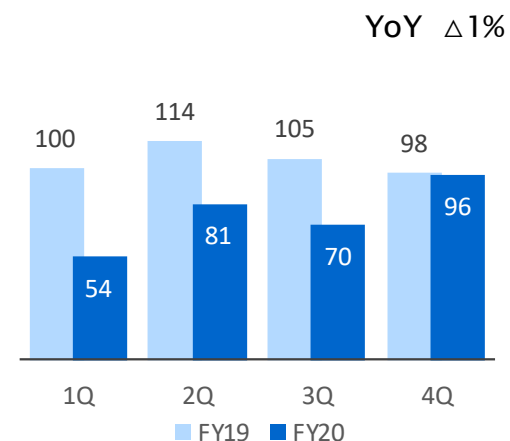
■ カラープロダクションプリント 販売台数



■ モノクロプロダクションプリント 販売台数



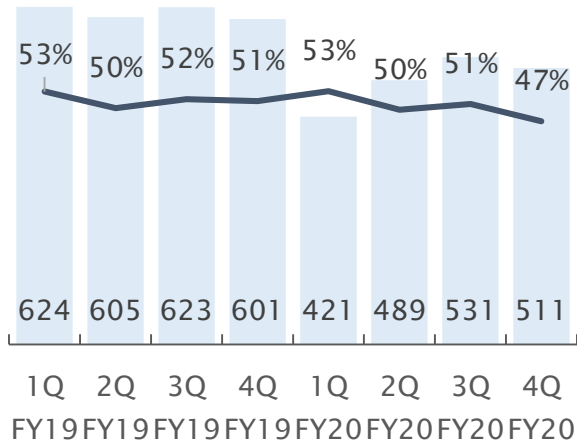
■ プロダクションプリント トータル販売台数



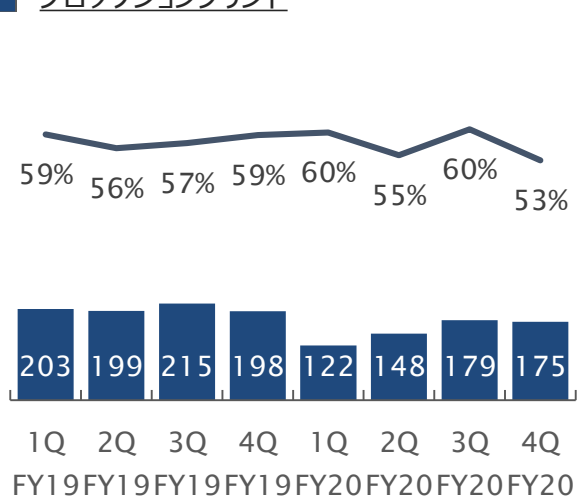
\* 2019年度1Qを100とした場合の指数

【億円】 ノンハード売上高・ノンハード比率

■ オフィスMFP



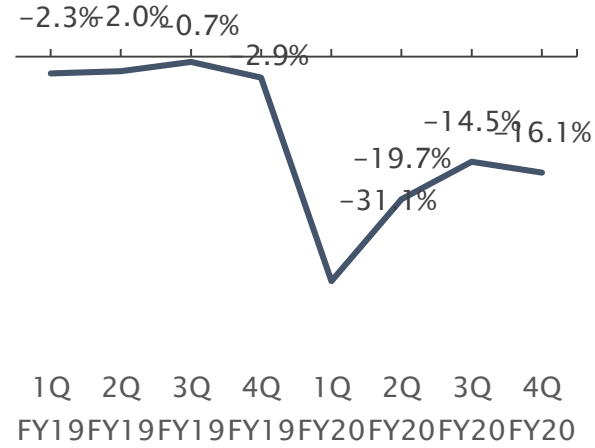
■ プロダクションプリント



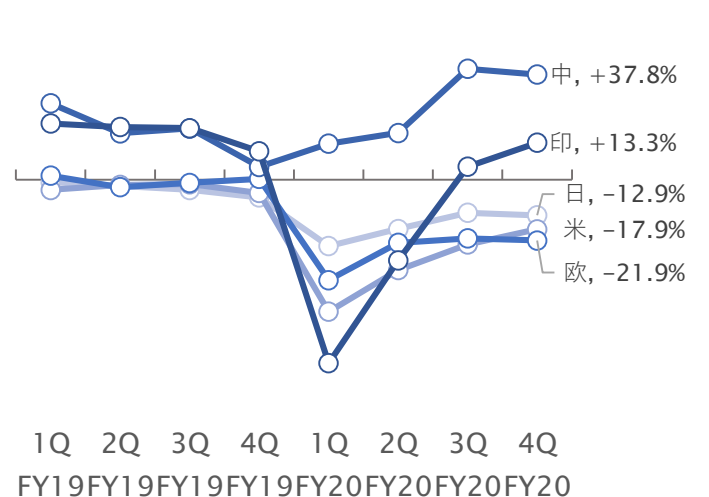
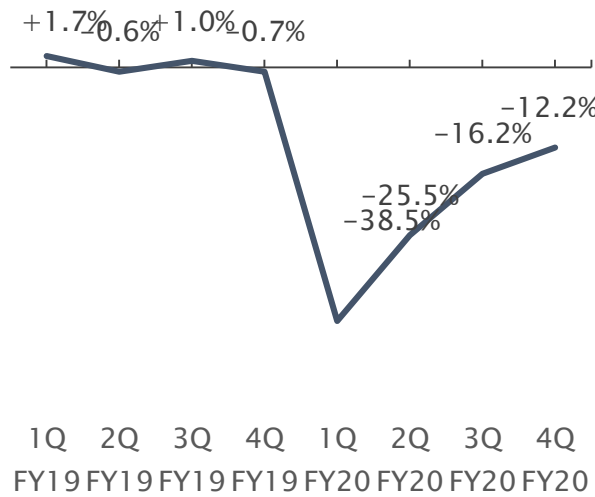
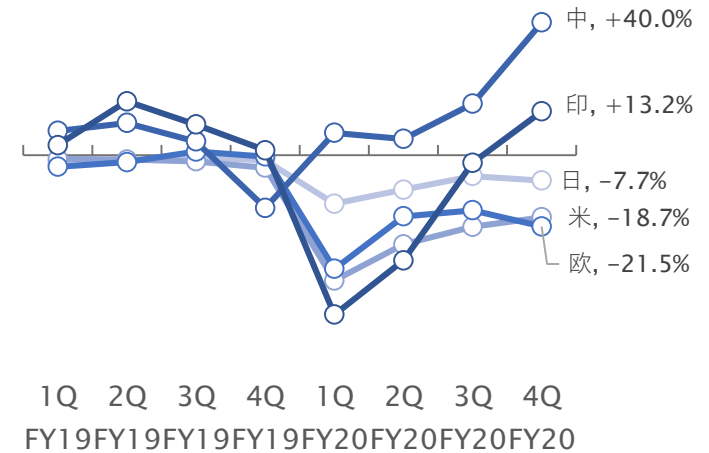
ノンハード売上高前年伸長率

(現地通貨ベース)

【全社】



【地域別】





【億円】

【売上高】	FY18				FY19				FY20			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
デジタルワークプレイス事業	1,435	1,472	1,457	1,514	1,350	1,391	1,395	1,354	946	1,167	1,250	1,289
プロフェッショナルプリント事業	534	559	558	627	506	527	554	514	318	417	453	508
ヘルスケア事業	245	282	275	368	259	338	259	330	205	249	282	355
ヘルスケア	186	216	209	298	186	264	181	247	164	191	200	279
プレジジョンメディシン	59	65	66	69	72	74	77	83	41	59	82	76
インダストリー事業	335	303	310	304	300	298	285	289	261	279	315	328
センシング	96	72	77	76	66	67	73	70	71	76	80	96
材料・コンポーネント	215	201	206	193	210	205	189	185	161	176	205	196
画像IoTソリューション	24	29	26	34	25	27	23	34	29	28	30	35
コーポレート他	3	3	5	3	3	3	3	5	2	3	2	5
全社合計	2,552	2,619	2,605	2,815	2,417	2,557	2,495	2,491	1,732	2,115	2,302	2,485
【営業利益】	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
デジタルワークプレイス事業	77	119	99	106	55	78	43	1	△ 96	3	31	35
プロフェッショナルプリント事業	17	37	33	51	11	10	29	△ 7	△ 71	△ 17	△ 0	9
ヘルスケア事業	△ 16	9	△ 13	6	△ 21	△ 12	△ 4	△ 6	△ 47	△ 18	△ 5	7
インダストリー事業	53	35	43	21	32	37	42	32	28	22	48	58
コーポレート他	24	△ 9	△ 3	△ 65	△ 70	△ 65	△ 59	△ 45	△ 41	△ 42	△ 40	△ 26
全社合計	154	192	159	119	6	49	51	△ 24	△ 226	△ 52	33	83



旧セグメント	
オフィス事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ オフィス(OP)</li> <li>■ ITサービス・ソリューション(ITS)</li> </ul>
プロフェッショナル プリント事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ プロダクションプリント(PP)</li> <li>■ 産業印刷(IP)</li> <li>■ マーケティングサービス(MS)</li> </ul>
ヘルスケア 事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ヘルスケア(HC)</li> <li>■ 医療IT(HIT)</li> </ul>
産業用材料 ・ 機器事業	産業用光学システム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 計測機器(MI)</li> <li>■ 映像ソリューション(IS)</li> </ul>
	材料・コンポーネント
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 機能材料(PM)</li> <li>■ 光学コンポーネント(OC)</li> <li>■ IJコンポーネント(IJ)</li> </ul>
■ 新規事業：バイオヘルスケア(BHC)、ワークプレイスハブ(WPH)、状態監視、QOLなど	
コーポレート他	



新セグメント（現行）	
デジタルワーク プレイス事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ オフィス(OP)</li> <li>■ ITサービス・ソリューション(ITS)</li> <li>■ ワークプレイスハブ(WPH)</li> </ul>
プロフェッショナル プリント事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ プロダクションプリント(PP)</li> <li>■ 産業印刷(IP)</li> <li>■ マーケティングサービス(MS)</li> </ul>
ヘルスケア 事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ヘルスケア(HC)</li> <li>■ プレジジョンメディシン(APM)</li> </ul>
インダストリー 事業	センシング
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 計測機器(MI)</li> </ul>
	材料・コンポーネント
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 機能材料(PM)</li> <li>■ 光学コンポーネント(OC)</li> <li>■ IJコンポーネント(IJ)</li> </ul>
	画像IoTソリューション
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 画像IoTソリューション(IIS)</li> <li>■ 映像ソリューション(VS)</li> </ul>
コーポレート他、QOL	

■ 基盤事業   ■ 成長事業   ■ 新規事業

# 20年度 業績 | 事業セグメント別売上高と営業利益 (旧セグメント)

【億円】

売上高	2020年度		2019年度		2020年度		2019年度		2020年度	
	通期	営業利益率	通期	営業利益率	4Q	営業利益率	4Q	営業利益率	3Q	QoQ
オフィス事業	4,618		5,465		1,279		1,343		1,240	+ 3%
プロフェッショナルプリント事業	1,696		2,101		508		514		453	+ 12%
ヘルスケア事業	834		879		279		247		200	+ 39%
産業用材料・機器事業	1,092		1,096		308		267		295	+ 4%
産業用光学システム	355		308		112		82		90	+ 24%
材料・コンポーネント	737		788		196		185		205	△ 4%
新規事業	389		412		110		118		113	△ 2%
バイオヘルスケア	257		306		76		83		82	△ 6%
その他	132		106		34		36		31	+ 8%
コーポレート他	6		8		2		2		1	+ 31%
全社合計	8,634		9,961		2,485		2,491		2,302	+ 8%

営業利益 (右側：営業利益率)	2020年度		2019年度		2020年度		2019年度		2020年度	
	通期	営業利益率	通期	営業利益率	4Q	営業利益率	4Q	営業利益率	3Q	QoQ
オフィス事業	47	1.0%	239		47	3.7%	13		53	△10%
プロフェッショナルプリント事業	△ 79	-	44		9	1.8%	△7		△ 0	-
ヘルスケア事業	26	3.1%	6		21	7.7%	1		10	+122%
産業用材料・機器事業	189	17.3%	192		68	22.0%	38		56	+20%
新規事業	△ 212	-	△ 177		△40	-	△29		△ 49	-
コーポレート他	△ 134	-	△ 222		△23	-	△41		△ 37	-
全社合計	△ 163	-	82		83	3.4%	△24		33	+ 154%

・**複合機（MFP: Multi Functional Peripheral）スピードセグメント：デジタルワークプレイス事業**

Seg.1 ～20枚機、Seg.2 21-30枚機、Seg.3 31-40枚機、Seg.4 41-69枚機、Seg.5 70～枚機（A4縦、分速）

・**Workplace Hub（WPH/ワークプレイスハブ）：デジタルワークプレイス事業**

当社が提供するIoTプラットフォーム。複合機にサーバーを搭載して、現場（エッジ）でリアルタイムでデータを分析、パターン可視化し、ITインフラ管理コストの削減、ビジネスプロセス効率化に役立つソリューションを提供。人とデータを結び付け、オフィスでの意思決定や問題解決の支援をよりスマートに実現する。

・**カラープロダクションプリント機セグメント：プロフェッショナルプリント事業**

ELPP（Entry Light Production Print、月間印刷量10-30万枚、主に大企業の集中印刷室向け低価格帯商品）

LPP（Light Production Print、月間印刷量10-30万枚、商業印刷向け商品）

MPP（Mid Production Print、月間印刷量30-100万枚、商業印刷向け商品）

HPP（Heavy Production Print、月間印刷量100万枚以上、商業印刷向け商品）

・**X線動態解析：ヘルスケア事業**

X線画像を連続的に撮影することで患部の動きを観察することができより詳しい診断を可能にする装置およびシステム

・**infomity：ヘルスケア事業**

医療機関の診療を様々なかたちで支援するICTサービスプラットフォーム。複数の医療機関で撮影画像やレポート内容などの診察情報を共有できる「連携BOXサービス」、読影依頼をする事が出来る「遠隔読影支援サービス」などを提供。

・**CARE Program：ヘルスケア事業**

遺伝性乳がんハイリスク群の効果的な拾い上げと遺伝子診断に関わるトータルサポートを行うプログラム。

・**CARE for COVID：ヘルスケア事業**

COVID-19の感染拡大を予防する健康管理プログラム。AI Chatbotによるカウンセリング、PCR検査、遠隔医療の提供により従業員や市民の安心と安全を提供する。

・**SANUQI：インダストリー事業**

ディスプレイ用の電子デバイスの構成部材として使用される、新樹脂フィルムの商標。



**KONICA MINOLTA**

- **本資料の記載情報**  
本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。
- **将来見通しに係わる記述についての注意事項**  
本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。